

# 授業要項



2022年度（2・3学年）

富士市立看護専門学校

## 目 次

1. 履修の手引き	1
2. 進度表	8
3. 行事・教科外活動	9
4. 各年次の履修科目と時間数	10
5. 基礎分野	
国語 II	13
人間関係論 I	14
人間関係論 II	15
英語 II	16
家族社会学	17
宗教人類学	18
6. 専門基礎分野	
解剖生理学IV	19
疾病論IV	21
疾病論V	23
医療概論	24
公衆衛生学	25
社会福祉	26
関係法規	27
7. 専門分野 I	
基礎看護技術VII	28
臨床看護総論 II	29
8. 専門分野 II	
成人看護学	
成人臨床看護IV	33
成人臨床看護V	37
老年看護学	
老年臨床看護 I	40
老年臨床看護 II	41
老年臨床看護 III	43
小児看護学	
小児臨床看護 I	46
小児臨床看護 II	49
小児臨床看護 III	51
母性看護学	
母性臨床看護 I	53
母性臨床看護 II	56
母性臨床看護 III	58
精神看護学	
精神看護学概論	62
精神保健	64
精神臨床看護 I	66
精神臨床看護 II	68
9. 統合分野	
在宅看護論	
在宅看護概論	71
在宅援助論 I	72

在宅援助論 II	73
在宅援助論 III	75
看護の統合と実践	
看護の統合 I	76
看護の統合 II	78
看護の統合 III	80
看護の統合 IV	83

# 履修の手引き

この手引きは、履修のために必要なことが書かれています。熟読かつ活用して、効果的に学修しましょう。

また、学生便覧の成績評定に関する規程、成績評定に関する規程細則についても熟読し、計画的に履修しましょう。

## 1. 単位取得についての注意点

- 1) 卒業までに 98 単位の履修が必要です。履修科目は全てが必修科目です。
- 2) 履修科目は 1 年次・2 年次・3 年次と履修の時期や順序が決まっています。さらに、技術テスト I・II が合格できない場合も、臨地実習の履修ができなくなるので、履修要件を把握し、くれぐれも単位を落とすことのないようにしましょう。

## 2. 評価方法について

- 1) 評価方法は筆記試験・レポート・実技試験・出席・授業態度等、各講師により異なります。授業要項で確認しておきましょう。但し、講師によっては授業要項の内容を変更する場合もありますので、開講後、担当講師の説明をよく聴いてください。
- 2) レポートをもって評価する科目については、指定された期限内に提出しなければなりません。やむを得ない理由により指定された期限内に提出できない者は、成績評定に関する規程に準じます。
- 3) 学科試験の受験資格は、当該学科の授業時間数の 2/3 以上の出席を要します。なお、やむを得ない理由により欠席する場合を除き、授業全てに出席することが望ましいです。時間数の少ない講義もあるため、全ての時間に出席できるよう自己管理してください。
- 4) 追試験は病気・忌引き・公共交通機関の遅れ・就職試験・進学の受験・その他校長が特別の事情と認めた場合には、必要な添付書類と追試験受験願を提出することで受験できることがあります。詳細は学生便覧の成績評定の規程第 4 条を参照してください。
- 5) 再試験を受けようとする者は、合否決定の翌日の午後 5 時までに再試験受験願を提出しなければなりません。提出できない者は、成績評定に関する規程に則り、受験できません。
- 6) 複数の講師により構成される科目については、それぞれに評価方法を提示してあるので、事前に確認してください。

## 3. 開講時の準備について

### ※ 授業を受ける際の注意点

- 1 単位の学修時間は「45 時間」と文部科学省にて定められています。そのため、授業時間が 45 時間より少ない場合は、その不足する時間数は「自己学修時間」と設定されています。

(例えば、1 単位 15 時間の授業の場合は、不足する 30 時間が自己学修時間であり、1 単位が 30 時間の授業の場合は、15 時間が自己学修時間である) その点を意識して、十分な自己学修を行う必要があります。

- 1) 時間割で初講・終講、試験日を確認し、計画的に学修を進めてください。
- 2) 初講前には必ず授業要項を読み、科目の概要を把握し、必要なテキスト・副読本を準備してください。また、講義によっては事前学修課題が提示されることがありますので、計画的に課題学修を行い、授業に臨んでください。

#### 4. テキスト・副読本の取り扱いについて

- 1) 冊子版のテキスト・副読本は購入後速やかに不足や乱丁等を確認し、不都合のある場合は、直接購入書店に連絡してください。
- 2) 冊子版のテキスト・副読本には必ず名前を書き紛失しないようにしてください。紛失した場合には再度購入が必要となります。

#### 5. 効果的な学修のために

- 1) わからないことをそのままにせず質問する等、理解できるように努めましょう。
- 2) 知識は、最終的には患者の看護に活かすものです。暗記するだけでは役に立たず、根拠を踏まえ理解する必要があります。知識を積み重ね、関連性を意識して学修しましょう。
- 3) 講義では重要な点について取り上げています。一回だけのものですから大切にしましょう。集中することが知識の定着につながります。
- 4) 講義資料は整理し活用できるようにしましょう。その後の臨地実習の準備学修や国家試験の学修に役立ちます。
- 5) 高校までの授業と違い、板書をきれいにするような講義スタイルはほとんどありません。講師の話を聞きながら重要な点にアンダーラインを引いたり、ノートやテキストにメモしたりするようなスタイルの講義が多くなります。またグループワークを行い、まとめ上げて発表することや、自分の考えをレポートにまとめて提出することも増えます。受け身ではなく、主体的に学修する姿勢が大切です。

#### 6. 他の注意事項

- 1) 時間割の変更について

時間割の変更は 1 階掲示板にて連絡します。緊急時は口頭でお知らせします。掲示板は、登校時及び下校時には確認する習慣をつけましょう。

- 2) 終講時は一部の講師に対しては「授業評価」を行います。目的はその科目に対する学生自身の学修姿勢や学びを振り返り、講師や教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価の結果は担当講師に伝えます。真剣な取り組みをお願いします。
- 3) 講義中は私語や飲食は禁止です。

- 4) 原則として携帯電話・スマートフォンは電源を切り、授業で使用する場合は教員の指示に従ってください。デジタル教科書をダウンロードしたタブレット等は使用できます。
- 5) 居眠りはしないでください。
- 6) マナーが悪い場合には退室を命じる場合もあります。出席時間として認められなくなります。
- 7) 校内での演習中はお互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉遣いを習慣化してください。

## 7. 学科試験実施要領（単位認定試験）

学科試験においては、以下の実施要項に従い、確実に単位を修得してください。

### 1) 学科試験の目的と心構え

学科試験（単位認定試験）は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業要件、大学編入や大学院進学の条件となるものです。したがって試験を神聖なものとして重く受け止め、カンニングや不正行為のないようにしてください。試験中の不正行為やそれと疑われる行為があった場合は、単位の修得の取り消しや懲戒処分の対象になります。

### 2) 単位認定試験の注意事項

- ・ 座席は学籍番号順とする。
- ・ スマートフォンや携帯電話の電源は切り、試験前に全てを回収ボックスに入れる。
- ・ 机の中や横に物を置かないこと。
- ・ 机の上に落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・ 机と机の間隔は均等にする。
- ・ テキストやノート、電源を切ったタブレットはカバンに入れ、教室後ろのロッカーに入れるか、更衣室のロッカーに入れる。教室後ろのロッカーの上には物を置かないこと。
- ・ 貴重品は、各自が責任持って管理する。
- ・ 机の上には、鉛筆（シャープペン）・消しゴムのみを準備し、原則として、それ以外の物は置かないこと。
- ・ やむを得ず、テッシュペーパー、膝掛け等を使用したい場合は、開始前迄に試験監督者に申請し許可を得る。
- ・ 試験開始前の私語は厳禁であり、学生は5分前には着席して待つようとする。
- ・ 試験問題や解答用紙が配布されたら、試験監督者の指示があるまでは触れてはいけない。
- ・ 試験開始の合図があつたら、学籍番号と名前を記載する。
- ・ 試験問題等に不鮮明な個所がある場合は静かに挙手し、試験監督者に伝える。
- ・ 試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は静かに挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
- ・ 試験時間内の退出は認めない。（原則として45分間）

- ・ 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置く。
  - ・ 試験監督者の指示に従って解答用紙と試験問題を全て回収する。
  - ・ 試験監督者からの解散の合図があるまでは着席して待つ。
- 3) 遅刻者への対応
- ・ 試験開始予定時刻より 15 分を超えて遅れた場合は、試験を受けることができない。
- 4) 不正行為の禁止
- ・ 試験中の不正行為や試験中の不正行為と疑われる行為は、戒告や停学の懲戒処分に該当する行為となる。
  - ・ カンニングは不正行為である。
  - ・ 試験監督者の指示に従わない、または不正行為と疑われる行為（キヨロキヨロする、覗き込む等）が認められる場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
  - ・ 試験用紙及び解答用紙の配布や回収時に私語があった場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
  - ・ 携帯電話やスマートフォン、タブレットで試験問題の撮影をした場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。

## 8. 技術テスト実施要領

### 1) 基礎看護技術テスト I 実施要項

#### 【目的・位置づけ】

学則第 19 条に基づき、学科試験を実施する。但し、基礎看護技術については、より確実な知識と技術の修得を目指し、基礎看護技術 II・IV・VIにおいては、筆記テストに加えて、技術テストを実施する。基礎看護技術 II・IV・VIにおける技術テストをまとめて「基礎看護技術テスト I」と規定する。基礎看護技術テスト I に合格しなければ、臨地実習基礎看護学 II を履修することができない。(成績評定に関する規程細則第5条(2))

#### 【実施時期】

1 年次、7月～10月頃(但し、諸事情により試験日の変更の可能性あり)

#### 【試験項目】

体温・呼吸・脈拍・血圧測定及び観察・アセスメント、車椅子の移乗・移送、全身清拭と陰部洗浄の3項目を実施する。試験項目の詳細については、各科目担当教員の説明に従うこと。

#### 【受験資格について】

- ・ 当該学科目の授業時間数の2/3以上の出席を要する。(成績評定に関する規程第3条)。また、試験開始時間15分を越えて遅れた場合は試験を受けることはできない。(同規程細則第2条2)
- ・ 追試験受験に該当する場合(成績評定に関する規程第4条)は、同規程第4条2～8に則って、手続きや書類提出を行う。
- ・ 受験時は、学生便覧の11. 学生心得及び実習室オリエンテーション資料(「看護実習室使用

時の心得」)に準じて服装及び身だしなみが整っていること。整っていない場合は、受験資格を失うため、整えて臨むこと。

- ・受験にあたっては、各単元のそれぞれの演習前、夏休み中の自主練習を十分に行い、各担当教員からの課題を全て終了している必要がある。不足な場合は、受験資格を失うので注意すること。

#### 【評価について】

合格基準は、筆記試験は6割、技術試験はそれぞれの項目の基準とする。試験目的が知識及び技術の両方の確実な修得を目指すため、合格基準に満たなかった場合は、筆記及び技術それぞれの再試験を実施する。その際は、成績評定に関する規程第5条2に定められた手続きや書類提出を行う。また、やむを得ない理由以外で決められた試験日時に受験しなかった者の再試験の成績は、同規程第5条8に則る。再試験に合格すれば同規程第5条6に則り、合格の最低点(6割)を成績とする。

## 2) 基礎看護技術テストII 実施要項

#### 【目的・位置づけ】

安全・安楽に基づいた基礎看護技術を修得する。領域別実習に必要な看護技術修得状況の確認テストであり、合格しなければ、領域別実習を履修することはできない。(成績評定に関する規定細則第5条)

#### 【実施時期】

2年次、11月下旬～12月上旬頃

#### 【修得すべき基礎看護技術項目】

技術テストIIに臨むにあたり、以下の技術を修得しておく必要がある。

- ・口腔内・鼻腔内吸引
- ・膀胱留置カテーテル挿入中の患者の移乗・移送
- ・点滴静脈内注射の薬剤の準備・側管点滴の三方活栓を用いる方法(輸液管理含む)
- ・点滴中の患者の更衣
- ・酸素療法の実施方法と観察
- ・浣腸と床上排泄援助
- ・一時的導尿(滅菌手袋装着を含む)
- ・無菌操作(滅菌物と鑷子の取り扱い)

#### 【受験資格について】

- ・専門領域別臨地実習を履修するための条件(臨地実習基礎看護学III及び、2年次までに履修した専門基礎分野及び基礎看護学の授業科目の単位)を修得していること。
- ・指定期日までに定められた練習を終了し「技術テストII用 基礎看護技術自主練習記録」の提出が済んでいること。
- ・受験時は、学生便覧の11. 学生心得及び実習室オリエンテーション資料(「看護実習室使用

時の心得」)に準じて服装及び身だしなみが整っていること。服装・身だしなみが整っていない場合、テストは受けられないため、整えて臨むこと。

- ・ テスト開始時間後に、理由無く15分を越えて遅れた場合はテストを受けることはできない。(成績評定に関する規定細則第1条)また、やむを得ない理由でテストが受けられなかつた場合は、学則に従つて対処する。(成績評定に関する規定第4条)

#### 【自主練習時の記録について】

- ・ 各自の基礎看護技術の向上のために記録する。
- ・ 自主練習の記録は「技術テストⅡ用 基礎看護技術自主練習記録」に記載する。
- ・ 実施日、実施において注意した点・工夫した点・感想・疑問点・今後の課題を記録する。
- ・ 指定期日までに指定の場所に提出する。

#### 【評価について】

- ・ 技術テスト評価表に基づき評価する。学生の自己評価およびリフレクションをふまえて、担当教員が最終評価点を算出し、合格基準に到達したものを合格とする。
- ・ 不合格者は、臨地実習前の定められた最終合格期限までに合格する必要がある。
- ・ 再試験を受けようとする者は、成績評定に関する規程第5条2に定められた手続きや書類提出を行う。

#### 【再試験について】

- ・ 担当教員と日程の調整をとり、再試験の日時を確認する。
- ・ 再試験にあたり原則として、さらに3回以上の練習を行う必要がある。自主練習記録の提出については、担当教員の指示に従う。
- ・ 再試験は原則として1回限りである。

#### 【最終合格期限について】

指示された日時までに、技術テストⅡに合格できない場合は、臨地実習(成人看護学Ⅰ～Ⅲ、老年看護学Ⅲ、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、統合実習)を履修することができない。

### 3) 技術テストⅠ及び技術テストⅡの共通注意事項

#### 【技術練習について】

- ・ 課題・評価表を熟読し、効果的な練習をしましょう。(テスト前には教員の直接的な個別指導は受けずに、十分な自己練習を経て受験する)
- ・ 自主練習の際には実習室使用のルールを守り、物品の使用・片付け・ベッド周囲の清掃は各自が責任を持って行う。
- ・ 自主練習には原則的に個人の技術練習セットの物品を使用する。
- ・ テスト当日の使用物品については教員の指示に従うこと。
- ・ 技術テストの予定日程内にテストが終了しない場合は、担当教員と調整し課外時間に行う。

#### 【当日の動画撮影について】

- ・ 看護技術の確実な修得のために、テストの動画を撮影する。撮影した動画は受験者が自己の技術の振り返りのために用いることを目的とし、それ以外の活用は禁止する。
- ・ 動画は、学校の指定された iPad にて、同じグループの学生が撮影する。テスト終了後は指定期日に全て削除する。また、動画は自分の携帯通信機器での録画は禁止とする。

## 進度表 令和4年度（2022）

## 行事・教科外活動

	1年次	2年次	3年次	時期
行事・教科外活動	入学式	3	3	4月
	オリエンテーション	12		4月
	フレッシュマン研修	12		4月
	防災訓練	6	3	4月
	生活安全講話	1	1	4月
	健康診断	2	2	4月
	オープンキャンパス	3	3	7月
	救急の日		3	9月
	学生祭	9	9	11月
	宣誓式	3	3	1月
	記念講演会	2	2	1月
	地域の病院を知る会	3		2月
	卒業式	2	2	3月
各学年小計		58	31	19
合計(時間)		108		

## 学修支援時間

	1年次	2年次	3年次	時期
クラブ運営	4月		2	4月
	7月	2	2	7月
	8月	2	2	8月
	12月	2	2	12月
	1月	2	2	1月
	3月	2		3月
進級講話			2	4月
入学式全体練習			2	4月
宣誓式練習		2	2	1月
卒業式練習		2	2	3月
基礎看護技術導入		2		4月
フレッシュマンオリエンテーション		2		4月
その他	国試出張ガイダンス			4
	国家試験手続き			2
	ケースレポート聴講		6	8月
	ケースレポート準備			2
	EGオリエンテーション			2
	ゲートキーパー			2
学生祭準備		4	2	11月
臨地実習オリエンテーション	基礎 I	2		9月
	基礎 II	2		12月
	基礎 III		6	7月
	領域全体オリエンテーション		2	12月
	母性オリ		2	12月～1月
	小児オリ		2	12月～1月
シニア	老年 I・II オリエンテーション		4	10月
	老年 III オリエンテーション		2	1月
	成人才リエンテーション		2	1月
	精神オリエンテーション		2	3月
	在宅オリエンテーション		2	2月
	基礎 I	2		9月
臨地実習まとめ	基礎 II	2		12月
	基礎 III		4	7月
	3年間			6
				12月
技術テスト	ユニフォームオリエンテーション	2		5月
	基礎看護技術テスト II		8	11～12月
	技術総合評価結果伝達			4
	各学年小計	32	66	40
合計(時間)		138		

## 2年次 履修科目と時間数

基礎分野								
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
国語学Ⅱ	30	1	大学教員	外部	4月	試験	100	9月
人間関係論Ⅰ	30	1	公認心理師	外部	4月	レポート	100	9月
英語Ⅱ	30	1	大学教員	外部	4月	試験	100	7月
家族社会学	15	1	大学教員	外部	10月	試験	100	12月
宗教人類学	30	1	住職	外部	9月	レポート	100	12月
<2年次計>	135	5						

専門基礎分野								
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
解剖生理学IV	代謝・内分泌系	6	1	病院医師①	外部	10月		
	血液リンパ系	8		病院医師②	外部	4月		
	免疫系	2		病院医師③	外部	6月		
	解剖見学	6		大学教員	外部	7月		
	発展学習	8		専任教員	内部	6月		
疾病論IV	脳神経系	18	1	病院医師①	外部	4月		
	代謝・内分泌系	6		病院医師②	外部	9月		
	血液・造血器系	6		病院医師③	外部	4月		
	免疫系	2		看護師	外部	6月		
疾病論V	急性期①	2	1	病院医師①	外部	6月		
	急性期②	2		病院医師②	外部	6月		
	急性期③	2		看護師	外部	6月		
	慢性期	4		病院医師③	外部	1月		
	終末期	2		医師	外部	9月		
	終末期病態	3		病院医師④	外部	10月		
公衆衛生学	公衆衛生学①	10	2	保健所長	外部	6月	試験	30
	公衆衛生学②	20		保健師	外部	9月	試験	70
<2年次計>		87	5					

### 評価についての組み合わせ

科目	評価対象科目	時間数	講師名	評価方法	配点	合計	時期	
解剖生理学IV	解剖生理学IV・疾病論IV 代謝・内分泌系	12	病院医師①	試験	50	100	12月	
	解剖生理学IV 解剖見学	6	大学教員	レポート	50		7月	
	解剖生理学IV 発展学習	8	専任教員	レポート 試験			10月	
疾病論IV	疾病論IV 脳神経系	18	病院医師①	試験	50	100	6月	
	解剖生理学IV・疾病論IV 血液・造血器系	14	病院医師②	試験	40			
	解剖生理学IV・疾病論IV 免疫系	4	看護師	試験	10			
疾病論V	疾病論V 急性期①	2	病院医師①	試験	15	100	7月	
	疾病論V 急性期②	2	病院医師②	試験	20			
	疾病論V 急性期③	2	看護師	試験	15			
	疾病論V 慢性期	4	病院医師③	試験	20		1月	
	疾病論V 終末期	2	診療所医師	出席/レポート	10		10月	
	疾病論V 終末期・病態	3	病院医師④	試験	20		10月	

専門分野 I								
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
基礎看護学	基礎看護技術VII 与薬	30	1	専任教員	内部	5月	試験	100
	放射線療法	4		病院放射線技師	外部	4月	試験	10月
	麻酔療法	6		病院医師	外部	5月		5月
	手術療法	8		手術看護認定看護師	外部	5月		7月
	集中治療	2		集中ケア認定看護師	外部	6月		7月
	採血・死後の処置	6		専任教員	内部	4月		6月
	検査	4		病院臨床検査技師	外部	5月		5月
	臨地実習 基礎看護学III	45		専任教員	内部	7月	臨地実習	100
<2年次計>		105	3					

専門分野Ⅱ										
科目			時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
成人看護学	成人臨床看護IV	脳・神経系	10	1	病院看護師①	外部	5月	試験	35	6月
		腎系(腎移植)	10		病院看護師①	外部	4月		35	
		女性生殖器系	6		専任教員	内部	4月		20	
		泌尿・男性生殖器系	4		皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	4月		10	
	成人臨床看護V	代謝内分泌系免疫系	18	1	専任教員	内部	4月	試験	60	12月
		血液造血器系	8		病院看護師	外部	9月		40	
			4		がん化学療法看護認定看護師	外部	11月			
	臨地実習	成人看護学Ⅰ	90	2	専任教員	内部	2~3月	臨地実習	100	2~3月
		成人看護学Ⅱ	90	2	専任教員	内部	2~3月	臨地実習	100	2~3月
老年看護学	老年臨床看護Ⅰ	日常生活のアセスメントとケア	15	1	専任教員	内部	4月	試験	100	6月
	老年臨床看護Ⅱ	治療を必要とする高齢者	10	1	専任教員①	内部	6月	試験	40	10月
		高齢者に特有な症状 施設での看護	12		専任教員②	内部	6月		40	
		認知障害の高齢者の看護	8		認知症認定看護師	外部	9月		20	
	老年臨床看護Ⅲ	視覚障害	6	1	病院看護師①	外部	9月	試験	20	11月
		聴覚・味覚・臭覚障害	10		病院看護師②	外部	8月		40	11月
		歯・口腔障害	6		病院歯科衛生士	外部	10月	出席/レポート	10	10月
		嚥下障害	2		病院言語聴覚士	外部	10月	出席/レポート	10	10月
	臨地実習	皮膚障害	6		皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	8月	試験	20	11月
		老年看護学Ⅰ	45	1	専任教員	内部	10~11月	臨地実習	優	11月
		老年看護学Ⅱ	45	1	専任教員	内部	10~11月	臨地実習	100	11月
小児看護学	小児臨床看護Ⅰ	主な疾患・障害	30	1	病院医師①	外部	6月	試験	100	1月
	小児臨床看護Ⅱ	健康障害の小児の看護	15	1	病院医師②	外部		試験	100	6月
	小児臨床看護Ⅲ	主な疾患の看護、看護技術	20	1	病院医師③	外部		試験	70	1月
母性看護学	母性臨床看護Ⅰ	主な疾患の看護	10		病院看護師	外部	10月		30	
		妊娠・分娩・産褥・新生児の正常と異常	30	1	病院医師①	外部	4月	試験	100	10月
		妊娠期の看護	15	1	病院医師②	外部	6月		100	9月
	母性臨床看護Ⅱ	分娩期の看護	8	1	病院医師③	外部	9月		25	1月
		産褥期新生児期の看護過程	14		助産所助産師	外部	9月	試験	25	
	母性臨床看護Ⅲ	産褥期新生児期の看護	8	1	助産所助産師	外部	11月		50	
		精神看護概論	15	1	病院看護師	外部	4月	試験	100	6月
精神看護学	精神保健	ライフサイクルにおける心の問題	10	1	教育研究所所長	外部	4月	試験	40	9月
		回復を支援する	16		病院看護師	外部	5月		50	
		地域での看護の実際	4		市役所保健師	外部	7月	出席/レポート	10	7月
	精神臨床看護Ⅰ	主な疾患障害の特徴と治療	20	1	病院医師	外部	5月	試験	70	12月
		ケアの人間関係	10		専任教員	内部	9月	試験	30	
	精神臨床看護Ⅱ	主な疾患①看護過程	20	1	専任教員①	内部	9月	試験・課題	70	1月
		主な疾患②の看護	10		専任教員②	内部	10月	試験	30	
<2年次計>			660	21						

統合分野										
科目			時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
在宅看護論	在宅看護概論		15	1	専任教員	内部	4月	試験	100	6月
			15	1	訪問看護師介護支援専門員	外部	7月	試験	100	10月
	在宅援助論Ⅱ	生活援助技術	14	1	訪問看護師	外部	5月	試験	50	7月
		医療管理と看護	12		認定訪問看護師	外部	9月		50	12月
	在宅援助論Ⅲ	退院支援・退院調整	4		退院調整看護師	外部	11月			
看護の統合と実践	看護の統合Ⅰ	看護過程・指導相談	15	1	専任教員	内部	11月	ポートフォリオ	100	1月
		研究の実際	10	1	専任教員①	内部	11月	レポート	30	12月
		フィジカル アセスメント演習	20		専任教員②	内部	4月	試験	70	6月
<2年次計>			105	5						

総合計		
基礎分野	5単位	135時間
専門基礎分野	5単位	107時間
専門分野Ⅰ	3単位	105時間
専門分野Ⅱ	21単位	660時間
統合分野	5単位	105時間
	39単位	1112時間
行事・教科外活動＋学修支援時間		
合計		1223時間

### 3年次 履修科目と時間数

基礎分野								
科 目	時間数	単 位	担当講師	内外の別	開講時期	評 価	試験配点	試験月
人間関係論Ⅱ (フォローアップ研修を含む)	30	1	臨床心理士 4名	外部	6月	出席 レポート	優	6月
<3年次計>	30	1						

専門基礎分野								
科 目	時間数	単 位	担当講師	内外の別	開講時期	評 価	試験配点	試験月
医療概論	医療概論①	7	病院医師 専任教員	外部	9月	レポート	50	10月
	医療概論②	8		内部	9月	レポート	50	
社会福祉	30	2	大学教員	外部	6月	試験	中間50 期末50	7月 10月
関係法規	30	2	大学教員	外部	7月	試験	100	12月
<3年次計>	75	5						

専門分野Ⅱ										
科 目	時間数	単 位	担当講師	内外の別	開講時期	評 価	試験配点	試験月		
成人看護学	臨地実習	成人看護学Ⅲ	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～12月
老年看護学	臨地実習	老年看護学Ⅲ	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～12月
小児看護学	臨地実習	小児看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～12月
母性看護学	臨地実習	母性看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～12月
精神看護学	臨地実習	精神看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～12月
<3年次計>		450	10							

統合分野										
科 目	時間数	単 位	担当講師	内外の別	開講時期	評 価	試験配点	試験月		
看護の統合Ⅱ	看護管理	8	認定看護管理者 看護師 病院医療安全管理者	外部	6月	評価	30	8月		
	医療安全①	10		内部	5月		30			
	医療安全②	12		外部	7月		40			
看護の統合Ⅲ	国際看護	4	専任教員① 大学教員 専任教員② 専任教員③ 専任教員④ 消防署職員 病院臨床工学技士	内部	9月	出席/レポート	10	9月		
	災害概論	4		外部	5月	出席/レポート	10	6月		
	災害看護概論	6		内部	6月	試験	20			
	災害時の看護 護介入	6		内部	9月	試験	20	10月		
	被災者の看護 救急看護	8		内部	7月	試験	20			
	救護活動に必要な技術	4		外部	7月	資格取得	10	7月		
	医療機器と看護	4		外部	7月	出席/レポート	10	7月		
看護の統合Ⅳ	ケースレポート	16	専任教員① 専任教員② 専任教員③	内部	4月	ケースレポート	50	8月		
	技術総合評価	8		内部	12月	技術テスト	30	12月		
	看護のまとめ	6		外部	12月	レポート	20	12月		
在宅看護論	臨地実習	在宅看護論	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4～12月
看護の統合と実践	臨地実習	統合実習	90	2	専任教員	内部	9月	臨地実習	100	9～12月
<3年次計>		276	7							

総合計		
基礎分野	1単位	30時間
専門基礎分野	5単位	75時間
専門分野Ⅱ	10単位	450時間
統合分野	7単位	276時間
	23単位	831時間
行事・教科外活動＋学習支援時間		29+44=73時間
合計		904時間

# 基 硍 分 野

授業科目	国語学Ⅱ（文章表現法）	講師	大学教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

- ・看護を学修していく上で基盤となる「国語」の力として、読む・分析する・表現する・伝達するなどの技術や方法を発展させ、それを支える知識や視座を深める。

【内容】

1. 文学作品の読み解きプロセス
2. 論理的に読み解く
3. 論理的に表現する
4. 草稿と完成稿の比較考察
5. 作品の文章表現と深い理解
6. 深層的な読みと理解
7. 理解と表現
8. 論理的思考力

【使用テキスト】

- ・配布資料
- ・その他、授業内で指示する

【評価方法】

- ・終講筆記試験（論述試験）

授業科目	人間関係論Ⅰ (人間関係の概説)	講師	公認心理師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 看護者として人権の重要性を基盤に援助に携わる際必要となる「人間関係」に関する基本的な知識や技法を概観する。
2. 日常的な人間関係あるいは「生き方」を問う姿勢を培う。

【内容】

1. 人間関係を学ぶ意義
2. 私の人間関係
3. 対人関係の成立、維持、崩壊
4. 態度と対人関係
5. 集団と個人
6. コミュニケーション
7. カウンセリングと心理療法
8. コーチング、アサーティブ・コミュニケーション
9. コミュニケーションスキル
10. 私の中に生きる誰かとの人間関係
11. 保健医療チームの人間関係
12. 患者をめぐる人間関係
13. 地域をつくる人間関係（ソーシャルサポート、ピアサポート、リカバリー、エンパワメント、ノーマライゼーション）

【使用テキスト】

- ・人間関係論（医学書院）

【評価方法】

- ・レポート

授業科目	人間関係論Ⅱ (エンカウンター・グループ研修)	講師	臨床心理士		
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習目標】

- ・体験学修を通し自己理解・他者理解・相互関係の理解を深め、豊かで安定した人間性を育む。

【学習内容】

1. エンカウンター・グループ研修 (26時間)

1) 心理療法の理論

- (1) 個人と集団
- (2) 交流分析・芸術療法等

パーソナルスペース  
A L O H A で自分を振り返る  
あなたを認めるストローク  
ミソドラマ 等

2. フォローアップ研修 (4時間)

【使用テキスト】

- ・講師作成資料

【評価方法】

- ・出席状況、レポート

授業科目	英語Ⅱ（医療英語・会話）	講師	大学教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

- ・医療の場での英語表現に慣れ、看護師として職務上必要な英語の基本的なスキルを身につける。

【内容】

1. 医学専門用語
2. 患者と看護師のコミュニケーション
3. 診療場面の英会話

【使用テキスト】

- ・実践！医療英語 こんなとき、英語で何と言う？

【評価方法】

- ・小テスト（50%）及び終講筆記試験（50%）

授業科目	家族社会学	講師	大学教員		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

【目標】

- ・人権を基盤に成人と家族・職場・地域との関係を社会学的見地から理解し看護に活かす。

【内容】

1. 家族社会学の基本概念
2. 家族とは、家族の 3 類型（夫婦家族制）
3. 昔の家族
4. 近代家族
5. 現代の家族
6. 家族システム理論
7. 家族をとりまく地域社会

【使用テキスト】

- ・社会学（医学書院）
- ・講師作成資料

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	宗教人類学	講師	住職
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【学習目標】

- ・日本人の文化的背景を含み、日本人の死生観と生命の根源的な意味に触れ、倫理観を養う。

【学習内容】

1. 宗教を学ぶ意味、「無宗教」について
2. 瞑想について、世界観について
3. 宗教の見方、苦について
4. 三つの心の使い方、宗教の語義
5. 言葉について、自己覚知
6. 宗教の原初形態、基本形態
7. シャーマニズム、トーテミズム
8. 「わたし」について
9. シンクレティズム、慈悲
10. 止觀、呪術
11. マインドフルネス、神話
12. 神話

【使用テキスト】

- ・講師作成資料
- ・印刷教材

【評価方法】

- ・レポート

# 專 門 基 礎 分 野

授業科目	解剖生理学IV (代謝内分泌系・血液リ ンパ免疫系・系統解剖)	講師	病院医師① 6 時間
			病院医師② 8 時間 看護師 2 時間 大学教員 6 時間 専任教員 8 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

**【目標】**

- ・人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
- ・発展学修においては、解剖生理学の知識を日常生活行動と関連づけ看護の根拠とする。

**【内容】**

1. 代謝内分泌系 (担当 : 病院医師① 6 時間)
  - 1) 代謝
    - (1) 基礎代謝量
    - (2) 糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝
    - (3) ビタミン・ミネラル
  - 2) 内分泌
    - (1) ホルモンの種類と作用機序
    - (2) ホルモンの調節
    - (3) フィードバック機構
    - (4) 内分泌器官の構造とホルモンの機能

視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎皮質、副腎髓質
2. 血液リンパ系 (担当 : 病院医師② 8 時間)
  - 1) 血液の成分と機能
    - (1) 血液の組成と造血のしくみ
  - 2) 止血機構
    - (1) 凝固と纖維素溶解
  - 3) 血液型
    - (1) 輸血に関する検査
    - (2) 不適合輸血とは
3. 免疫系 (担当 : 看護師 2 時間)
  - 1) 非特異的生体防御機構
    - (1) 生体表面や粘膜での防御機構
    - (2) 食細胞とサイトカイン
    - (3) 胸腺・脾臓・リンパ節
  - 2) 特異的生体防御反応
    - (1) 免疫系の細胞
    - (2) 抗原と抗体

- (3) 液性免疫
- (4) 細胞性免疫
- (5) 補体
- (6) アレルギー反応
- (7) 組織適合性抗原 (HLA)

4. 系統解剖見学（担当：大学教員 6 時間）

5. 発展学修（担当：専任教員 8 時間）

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈内分泌・代謝〉（医学書院）
- ・成人看護学〈血液・造血器〉（医学書院）
- ・成人看護学〈アレルギー・膠原病・感染症〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	疾病論IV (脳神経系・代謝内分泌系・血液リンパ免疫系)	講師	病院医師①	18 時間
			病院医師②	6 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

- ・系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。

【内容】

1. 脳神経系（担当：病院医師① 18 時間）

1) 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療

- (1) 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血脳梗塞、もやもや病）
- (2) 頭蓋内圧亢進症
- (3) 頭部外傷
- (4) 腫瘍（脳腫瘍）
- (5) 変性疾患（パーキンソン病、ALS）
- (6) 脱髓疾患（多発性硬化症）
- (7) 感染症（脳炎、髄膜炎）
- (8) 機能性疾患（てんかん）

2) 末梢神経系の疾患の病態と診断・治療

- (1) ギランバレー症候群
- (2) 圧迫性神経障害、顔面神経麻痺（ベル麻痺）

2. 代謝内分泌系（担当：病院医師② 6 時間）

1) 代謝異常の疾患の病態と診断・治療

- (1) メタボリックシンドローム、肥満症
- (2) 糖尿病
- (3) 脂質異常症
- (4) 高尿酸血症、痛風
- (5) ビタミン欠乏症

2) 内分泌系の疾患の病態と診断・治療

- (1) 間脳、下垂体疾患
- (2) 甲状腺疾患（亢進症、低下症、甲状腺炎）
- (3) 副甲状腺（上皮小体）疾患
- (4) 副腎皮質・髄質疾患
- (5) 腫瘍（下垂体腫瘍・甲状腺癌）

3. 血液リンパ系（担当：病院医師③ 6時間）

1) 血液造血器の疾患の病態と診断・治療

- (1) 貧血（鉄欠乏性貧血、骨髓異型性症候群、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血）
- (2) 出血性疾患（TTP, ITP, DIC）
- (3) 白血球減少症
- (4) 造血器の腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）

2) 免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療

- (1) 敗血症
- (2) ヒト免疫不全ウィルス（HIV）

4. 免疫系：アレルギー・膠原病、感染症（担当：看護師 2時間）

1) 自己免疫疾患の病態と診断・治療

- (1) 全身性エリテマトーデス
- (2) 関節リュウマチ
- (3) シューグレン症候群

2) アレルギー疾患の病態と診断・治療

- (1) アナフィラキシーショック

【使用テキスト】

- ・成人看護学〈脳神経〉（医学書院）
- ・成人看護学〈内分泌・代謝〉（医学書院）
- ・成人看護学〈血液・造血器〉（医学書院）
- ・成人看護学〈アレルギー・膠原病・感染症〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	疾病論V (複数の疾患有を持つ患者)	講師	病院医師① 2時間 病院医師② 2時間 看護師 2時間 病院医師③ 4時間 医師 2時間 病院医師④ 3時間
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 15時間

【学習目標】

- ・複雑な疾患有の病態の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、また複数の疾患有を持つ患者を統合してとらえ、看護の方向性を考える。

【学習内容】

1. 急性期にあり、複数の疾患有を持つ患者
  - 1) 循環器系（担当：病院医師① 2時間）
  - 2) 消化器系（担当：病院医師② 2時間）
2. ショック状態にある患者の病態と診断・治療（担当：看護師 2時間）
3. 慢性期にあり、複数の疾患有を持つ患者（担当：病院医師③ 4時間）
4. 終末期にあり、複数の疾患有を持つ患者
  - 1) 終末期の在宅ケア（担当：医師 2時間）
  - 2) 終末期の病態の変化と対応（担当：病院医師④ 3時間）

【使用テキスト】

- ・印刷教材

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	医療概論	講師	病院医師 7 時間 専任教員 8 時間
開講時期	3 年次	単位数	1 単位 時間数 15 時間

【目標】

- ・現代医療（現代医学と先端医療技術）の動向と諸問題（医療倫理を含む）を知る。

【内容】

1. 現代医学と先端医療技術の動向と諸問題（担当：病院医師 7 時間）
  - 1) 医の倫理と患者の権利、臨床医学研究
  - 2) 医療の未来と高齢化社会、ゲノム医学とゲノム編集
  - 3) 生殖医療、補完代替療法・全人的統合医療
2. 医療倫理（担当：専任教員 8 時間）
  - 1) 医療資源の配分、生命倫理 4 原則と看護倫理 5 原則
  - 2) 安樂死
  - 3) 優生思想
  - 4) A C P、「人生会議」

【使用テキスト】

- ・学生のための医療概論（医学書院）

【評価方法】

- ・レポート

授業科目	公衆衛生学	講師	保健所所長 10 時間 保健師 20 時間
開講時期	2 年次	単位数	2 単位 時間数 30 時間

【目標】

- ・公衆衛生に関する統計情報及び健康な社会を実現するための個人や集団の組織的な保健活動を理解する。

【単元】

公衆衛生の概要と保健所の役割（担当：保健所所長 10 時間）

【内容】

1. 公衆衛生とは
2. 健康と環境、疫学的方法
3. 健康の指標
4. 感染症とその予防
5. 食品保健、生活環境の保全

【単元】

公衆衛生看護（担当：保健師 20 時間）

【内容】

1. 地域保健活動
2. 健康教育とヘルスプロモーション
3. 成人保健と健康増進
4. 母子保健
5. 高齢者保健
6. 精神保健
7. 産業保健
8. 難病対策
9. 学校保健

【使用テキスト】

- ・わかりやすい公衆衛生学（ヌーベルヒロカワ）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	社会福祉	講師	大学教員		
開講時期	3 年次	単位数	2 単位	時間数	30 時間

【目標】

- ・社会福祉の歴史と現状及社会保障・社会福祉と公衆衛生の関係について理解する。

【内容】

1. 社会福祉と社会保障の関係、社会保険と社会保障
2. 現代社会の変化
3. 地域の変化、家族機能の変化、育児・介護の社会化
4. 医療保障の歴史
5. 介護保険法
6. 成年後見制度
7. 児童福祉法、母子保健法
8. 労働保険制度、障害者総合支援法、児童手当
9. 公的扶助
10. 5つの社会保険
11. 医療給付の仕組み、公費負担医療、母体・母性保護関連法
12. 社会福祉援助技術の方法
13. 児童虐待防止法、少年法、児童福祉法
14. 社会福祉の今後の課題

【使用テキスト】

- ・健康支援と社会保障制度 [3] 「社会福祉・社会保障」(医学書院)

【評価方法】

- ・中間筆記試験、終講筆記試験

授業科目	関係法規	講師	大学教員
開講時期	3 年次	単位数	2 単位 時間数 30 時間

【目標】

- ・法の基礎及び衛生法規に関する知識を修得し、保健師助産師看護師法を中心に医療制度の中の看護職の位置と役割を理解する。

【内容】

1. 看護と法律
2. 看護師の法的位置づけ
3. 看護師の業務
4. 民事責任の体系
5. 刑事責任の体系
6. 健康保険・国民健康保険、高齢者医療、介護保険
7. 医療・看護関係法規

【使用テキスト】

- ・健康支援と社会保障制度 [4] 「看護関係法令」（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

# 専門分野 I

授業科目	基礎看護技術VII (与薬)	講師	専任教員					
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間			
<b>【目標】</b>								
・与薬における看護師の責任と役割を理解し、確かな知識に基づいた安全な与薬の援助ができる。								
<b>【内容】</b>								
1. 与薬の基礎知識								
2. 与薬における看護師の役割								
3. 安全な与薬のために								
1) 薬剤の種類と取り扱い方法、管理方法								
2) 誤薬のおこりやすい状況と対策								
4. 与薬方法と効果の観察								
1) 経口的与薬法								
2) 直腸内与薬法								
3) その他の与薬法								
4) 注射による与薬法								
(1) 皮下注射 (2) 筋肉注射 (3) 皮内注射 (4) 静脈内注射								
5. 輸液療法								
1) 点滴静脈内注射								
2) 中心静脈輸液								
3) 輸液ポンプ、シリンジポンプ								
4) チューブ・ライントラブルのおこりやすい状況と対策								
6. 輸血法								
7. 演習 (8時間)								
1) 皮下注射								
2) 筋肉注射								
3) 点滴静脈内注射								
4) 坐薬挿入								
<b>【使用テキスト】</b>								
・基礎看護技術 I (医学書院)			・基礎看護技術 II (医学書院)					
・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術			・看護がみえる vol. 2 臨床看護技術					
<b>【評価方法】</b>								
・終講筆記試験、レポート								

授業科目	臨床看護総論Ⅱ (治療・処置に伴う看護)	講師	専任教員	6 時間
			病院臨床検査技師	4 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

1. 検査に伴う患者への影響を理解し、安全かつ正確に検査が遂行できる知識・技術が習得できる。
2. 死後の処置の持つ意味を理解し、死を迎えた患者・家族に対し、敬虔な態度で接することができる。
3. 放射線療法の原理を理解できる。
4. 周手術期における患者・看護の特徴と看護師の役割について理解できる。
5. 麻酔療法の原理と麻酔療法が及ぼす身体への影響を理解できる。
6. 集中治療の目的および看護の役割について理解できる。

【単元】

- ・診察・検査・処置に伴う看護（担当：専任教員 6 時間）

【内容】

1. 診察・検査・処置の介助技術
  - 1) 診療とは
  - 2) 診察・検査に伴う看護
  - 3) 静脈血採取の方法
  - 4) 死後の処置
2. 演習（2 時間を含む）
  - 1) 静脈血採取（モデル人形）
  - 2) 血糖値測定（デモンストレーション）

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 ・看護がみえる vol. 2 臨床看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

**【単元】**

- ・検査（担当：病院臨床検査技師 4時間）

**【内容】**

1. 臨床検査

- 1) 総論（一般検査・血液検査・生化学検査）
- 2) 免疫学（細菌検査・病理検査・生理検査）
- 3) 疾患と検査値

**【使用テキスト】**

- ・検査値早わかりガイド 第2版（サイオ出版）

**【評価方法】**

- ・出席/レポート

---

**【単元】**

- ・放射線療法（担当：病院放射線技師 4時間）

**【内容】**

1. 放射線療法

- 1) 放射線療法とは
- 2) 放射線の種類と治療・管理
- 3) 画像診断（X線、CT、MRI、超音波検査等）

**【使用テキスト】**

- ・臨床看護総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

---

**【単元】**

- ・手術療法時の看護（担当：手術看護認定看護師 8時間）

**【内容】**

1. 手術療法

- 1) 周手術期看護とは

2) 手術前の看護

- (1) 手術前の患者のアセスメントと看護目標
- (2) 手術前オリエンテーション
- (3) 心理面を整える
- (4) 全身状態を整える
- (5) 手術前日の準備
- (6) 手術当日の看護

3) 手術中の看護

- (1) 手術室の安全管理
- (2) 入室時の看護
- (3) 麻酔導入時の看護
- (4) 手術中の看護
- (5) 手術終了時の看護

4) 手術後の看護

- (1) 手術後の回復を促進するための看護
- (2) 術後合併症予防と発症時の対応
- (3) 創傷治癒の促進
- (4) 自己管理に向けた援助

【使用テキスト】

- ・臨床看護総論（医学書院）
- ・別巻臨床外科看護 総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

---

【単元】

- ・麻酔療法（担当：病院医師 6 時間）

【内容】

1. 麻酔療法

- 1) 麻酔とは（麻酔をとりまく現状）
- 2) 麻酔の種類と管理
  - (1) 全身麻酔
  - (2) 局所麻酔
- 3) 手術侵襲と生体反応

**【使用テキスト】**

- ・臨床看護総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験
- 

**【単元】**

- ・集中治療時の看護（担当：集中ケア認定看護師 2時間）

**【内容】**

1. 集中治療
  - 1) 集中治療の目的と適応
  - 2) 集中治療における看護の役割と実際

**【使用テキスト】**

- ・臨床看護総論（医学書院）
- ・別巻臨床外科看護 総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・出席/レポート

専門分野 II

授業科目	成人臨床看護IV (脳神経系・腎系・泌尿生殖器系の看護)	講師	病院看護師① 10 時間 病院看護師② 10 時間 専任教員 6 時間 皮膚・排泄ケア認定看護師 4 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 脳神経系及び腎系、泌尿生殖器系に機能障害のある成人期の身体的・心理的・社会的变化と家族への影響を理解する。
2. 脳神経系及び腎系、泌尿生殖器系機能障害の誘因や原因から、障害によって異なる経過に伴う対象の看護上の問題を判断し、解決するための援助方法を理解する。
3. 主要な症状及びそれに伴う検査・治療・処置が対象に及ぼす影響から看護上の問題を判断し、解決するための援助方法を理解する。
4. 成人期にある対象への継続看護の必要性及び社会復帰に向けた援助方法を理解する。

【単元】

- ・脳神経系に障害のある患者の看護（担当：病院看護師① 10 時間）

【内容】

1. 脳・神経系看護の特徴
  - 1) 医療の動向と看護
  - 2) 患者の特徴と看護の役割
2. 症状・障害をもつ患者の看護
  - 1) 生命維持活動調節機能障害のある患者の看護  
(意識障害・嚥下障害・排尿障害・呼吸障害)
  - 2) 言語機能障害のある患者の看護  
(構音障害・失語症)
  - 3) 運動・感覚機能障害のある患者の看護  
(運動麻痺・運動失調・不随意運動・筋力低下・感覚障害)
  - 4) 高次脳機能障害のある患者の看護
3. 検査・処置・治療を受ける患者の看護
  - 1) 脳波検査
  - 2) 脳血管造影
  - 3) 開頭手術（穿頭手術・脳室ドレナージ・V-P シヤント術）
4. 疾患をもつ患者の看護
  - 1) クモ膜下出血患者の看護
  - 2) 脳梗塞患者の看護
  - 3) 脳腫瘍患者の看護
  - 4) 頭部外傷患者の看護

**【使用テキスト】**

- ・成人看護学 <脳神経> (医学書院)

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

---

**【単元】**

- ・腎系、泌尿生殖器系に障害のある患者の看護 (担当 : 病院看護師② 10 時間)  
(移植看護を含む)

**【内容】**

1. 対象の理解

- 1) 内部環境調節機能障害をもつ患者の特徴
2. 内部環境調節機能障害をもつ患者の看護
  - 1) 体液調節機能の観察とアセスメント
    - (1) 浮腫・脱水の観察法
    - (2) 水分出納、身体所見、血液検査の正常値
    - (3) 体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期
    - (4) 心身・生活への影響
  - 2) 体液不均衡のある患者の看護
    - (1) 腎生検時の援助
    - (2) 透析療法の適応基準と選択
    - (3) 血液透析・腹膜透析の管理
    - (4) シヤントの管理と患者指導
    - (5) 維持透析の生活指導
    - (6) 慢性腎不全の病期に応じた生活指導
  - 3) 腎移植を受ける患者の看護

**【使用テキスト】**

- ・成人看護学 <腎・泌尿器> (医学書院)

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

---

**【単元】**

- ・女性生殖器系に障害のある患者の看護 (担当 : 専任教員 6 時間)

### 【内容】

#### 1. 対象の理解

- 1) 女性生殖器系に障害のある患者の特徴
2. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護

#### 1) 症状に対する看護

ショック状態、性器出血、帯下・搔痒感、疼痛、リンパ浮腫、下腹部膨満感、自律神経失調症・不定愁訴

#### 2) 検査・処置を受ける患者への看護

(1) 外診時の看護

(2) 内診時の看護

(3) 検査・処置時の看護

#### 3) 治療を受ける患者への看護

(1) 乳癌手術

(2) 女性生殖器手術

(3) ホルモン療法

#### 4) 病期や機能障害に応じた看護

(1) 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣囊腫

(2) 乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌

(3) 月経異常、更年期障害

### 【使用テキスト】

- ・成人看護学 <女性生殖器> (医学書院)

### 【評価方法】

- ・終講筆記試験

---

### 【単元】

- ・泌尿器・男性生殖器系に機能障害のある患者の看護

(担当 : 皮膚・排泄ケア認定看護師 4 時間)

### 【内容】

#### 1. 対象の理解

- 1) 泌尿器・男性生殖器系に障害のある患者の特徴

#### 2. 泌尿器・性・生殖機能障害のある患者の看護

#### 1) 症状に対する看護

下部尿路症状(頻尿、残尿、尿閉、尿失禁)、尿の性状異常(血尿、膿尿)、疼痛(膀胱部痛、排尿時痛)

2) 検査・処置を受ける患者への看護

(1) 尿検査

鮮尿検査、尿培養検査、24時間蓄尿検査、試験紙検査、尿比重検査

(2) 残尿測定

(3) 膀胱鏡

(4) 尿流動態検査

(5) 導尿

(6) カテーテル留置(腎瘻カテーテル、膀胱瘻カテーテル、尿道留置カテーテル)

3) 治療を受ける患者の看護

(1) 手術を受ける患者への看護

① 膀胱の手術を受ける患者の看護

経尿道的膀胱腫瘍切除術・膀胱全摘除術および尿路変向術

② 前立腺の手術を受ける患者の看護

経尿道的前立腺切除術・前立腺全摘術・精巣の手術・尿路結石の手術

(2) 内分泌(ホルモン)療法を受ける患者の看護

4) 病期や機能障害に応じた看護

(1) 膀胱癌、前立腺がん

(2) 前立腺炎、前立腺肥大

【使用テキスト】

- ・成人看護学 <腎・泌尿器> (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	成人臨床看護V (代謝内分泌系・免疫系・血液造血器系の看護)	講師	専任教員 18 時間 病院看護師 8 時間 がん化学療法看護認定看護師 4 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 代謝内分泌・免疫・血液造血器系の機能障害のある成人期の身体的・心理的・社会的变化と家族への影響を理解する。
2. 代謝内分泌・免疫・血液造血器系の機能障害の誘因や原因から、障害によって異なる経過に伴う対象の看護上の問題を判断し、解決するための援助方法を理解する。
3. 主要な症状及びそれに伴う検査・治療・処置が対象に及ぼす影響から看護上の問題を判断し、解決するための援助方法を理解する。
4. 成人期にある対象への継続看護の必要性及び社会復帰に向けた援助方法を理解する。
5. 成人期の特徴をふまえ看護上の問題解決を目指した慢性期における看護過程の事例展開ができる能力を身につける。

【単元】

- ・代謝内分泌系、免疫系に機能障害のある患者の看護（担当：専任教員 18 時間）

【内容】

1. 対象の理解
  - 1) 栄養代謝・内分泌機能障害のある患者の特徴
    - (1) 医療の動向と看護
    - (2) 患者の身体的・社会的・心理社会的特徴
2. 内分泌機能障害のある患者の看護
  - 1) 内分泌疾患患者の看護
    - (1) 巨人症・先端巨大症患者の看護
    - (2) 尿崩症患者の看護
    - (3) 甲状腺機能亢進症患者の看護
    - (4) 甲状腺機能低下症患者の看護
    - (5) 甲状腺切除術を受ける患者の看護
    - (6) 副甲状腺機能亢進症患者の看護
    - (7) 副甲状腺機能低下症患者の看護
    - (8) クッシング症候群患者の看護
    - (9) アジソン病患者の看護
    - (10) 褐色細胞腫患者の看護
  - 2) 内分泌機能障害のある患者の治療に伴う看護
    - (1) ホルモン補充療法を受ける患者の看護
  - 3) 栄養代謝機能障害のある患者の看護

### (1) 糖尿病患者の看護

- ①患者の身体的・心理社会的特徴
- ②糖尿病患者の看護目標とアセスメント
- ③食事療法および運動療法の原則と看護
- ④薬物療法に伴う看護（経口糖尿病薬・インスリン療法・自己血糖測定）
- ⑤合併症予防に対する援助（急性合併症と予防・慢性合併症と予防）

### 3. 身体防御機能の障害のある患者の看護

#### 1) 免疫機能障害のある患者の看護

- (1) 医療の動向と看護
- (2) アレルギー疾患患者の特徴と看護の役割
  - ①アナフィラキシーショックと看護
- (3) 膜原病患者の特徴と看護
  - ①全身性エリテマトーデス(SLE)患者の看護
  - ②症状に対する看護（レイノ一現象）
  - ③社会支援（医療費助成制度の活用）
- (4) 検査・治療を受ける患者の看護
  - ①薬物療法を受ける患者の看護（副腎皮質ステロイド・免疫抑制薬等）
  - ②スキンテストを受ける患者の看護
  - ③アレルゲン免疫療法を受ける患者の看護

### 4. 事例展開

#### 1) 成人期にある糖尿病患者の看護（慢性期患者の看護）

#### 【使用テキスト】

- ・成人看護学 <内分泌・代謝>（医学書院）
- ・成人看護学 <アレルギー・膜原病・感染症>（医学書院）
- ・糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂）

#### 【評価方法】

- ・終講筆記試験、プレテスト、レポート、プレゼンテーション、看護過程の展開

---

#### 【単元】

- ・血液造血器・リンパ系に機能障害のある患者の看護  
化学療法を受ける患者の看護（易感染性のメカニズムを含む）  
(担当：病院看護師 8時間、がん化学療法看護認定看護師 4時間)

#### 【内容】

1. 対象の理解（担当：病院看護師）

- 1) 医療の動向と看護
  - 2) 患者の特徴と看護の役割
  - 3) 貧血患者の特徴と看護の役割
2. 身体防御機能の障害のある患者の看護の役割（担当：病院看護師）
    - 1) 生体防御機能の障害（易感染性）のメカニズム（担当：病院看護師）
    - 2) 主要症状を有する患者の看護（担当：病院看護師）
      - (1) 骨髄機能障害のある患者の看護
        - ①血液成分と機能、造血のしくみ
        - ②貧血のある患者の看護
        - ③出血傾向のある患者の看護
        - ④白血球減少傾向のある患者の看護
    - 3) 検査を受ける患者の看護（担当：病院看護師）
      - (1) 骨髄穿刺・骨髄生検を受ける患者の看護
    - 4) 造血器腫瘍（血液悪性疾患）患者の看護
      - (1) 造血器腫瘍（血液悪性疾患）患者の特徴と看護の役割（担当：がん化学療法看護認定看護師）
      - (2) 白血病患者の看護（担当：病院看護師）
      - (3) 悪性リンパ腫患者の看護（担当：がん化学療法看護認定看護師）
    - 5) 主な治療と看護
      - (1) がん化学療法を受ける患者の看護（担当：がん化学療法看護認定看護師）
      - (2) 輸血療法を受ける患者の看護（担当：病院看護師）
      - (3) 造血幹細胞移植を受ける患者の看護（担当：病院看護師）

【使用テキスト】

- ・成人看護学 <血液・造血器>（医学書院）
- ・臨床看護総論（医学書院）・・がん化学療法看護認定看護師の担当時間のみ

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	老年臨床看護Ⅰ (日常生活のアセスメントとケア)	講師	専任教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

1. 高齢者によく見られる生活機能障害のアセスメントとケアについて理解する。
2. 高齢者を支えるために必要な日常生活援助技術を修得する。

【内容】

1. 日常生活を支える基本的活動
  - 1) 基本動作と環境のアセスメントと看護
  - 2) 転倒のアセスメントと看護
  - 3) 廃用症候群のアセスメントと看護
2. 食事・食生活のアセスメントと看護
3. フレイル・低栄養状態のアセスメントと看護（脱水症）
4. 排泄のアセスメントと看護
5. 清潔のアセスメントと看護
6. 生活リズムのアセスメントと看護
7. コミュニケーションのアセスメントと看護
8. セクシャリティと社会参加
9. 健康の維持と介護予防（介護予防のアクティビティ）
10. 演習・生活機能を整える看護の実際

【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	老年臨床看護Ⅱ (健康障害をもつ高齢者の看護)	講師	専任教員① 専任教員② 認知症認定看護師	10時間 12時間 8時間
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数 30時間

【目標】

1. 健康障害をもつ高齢者の特徴、主たる治療、多い症候に対する看護を理解する。
  2. 健康障害をもつ高齢者の問題を総合的にアセスメントし、実施、評価するための過程を理解する。
- 

【単元】

- ・健康障害をもち治療を必要とする高齢者の看護（担当：専任教員① 10時間）

【内容】

1. 高齢者に対する治療方法と看護
  - 1) 急性期の高齢者への看護（手術療法）
  - 2) 慢性期の高齢者への看護
  - 3) 回復期の高齢者への看護
  - 4) エンドオブライフケア
  - 5) 外来を受診する高齢者の看護
  - 6) 検査を受ける高齢者の看護
  - 7) 薬物療法を受ける高齢者の看護

【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験
- 

【単元】

- ・高齢者に特有な症候・疾患の看護と家族や多様な場での看護（担当：専任教員② 12時間）

【内容】

1. 高齢者に特有な症候や疾患
  - 1) パーキンソン病
  - 2) インフルエンザ
  - 3) 感染性胃腸炎
  - 4) 骨粗鬆症と骨折

2. 治療や介護を必要とする高齢者の家族への看護
3. 多様な場で展開する高齢者への看護
  - 1) 医療施設への入退院
  - 2) 施設入所中
  - 3) 居宅サービスを利用しながら在宅で暮らす高齢者
  - 4) 福祉用具や介護用品の活用
4. 高齢者に特徴的な災害時の看護
5. 事例展開

施設に入所中の高齢者の看護（認知症や肺炎等の疾患）

#### 【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）

#### 【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

---

#### 【単元】

- ・認知機能に障害のある高齢者の看護（担当：認知症認定看護師 8時間）

#### 【内容】

1. うつ病・せん妄の高齢者の看護
  - 1) 症状と生活への影響とアセスメント
  - 2) 予防や治療と看護の実際
2. 認知症
  - 1) 加齢による病態と要因
  - 2) 症状と生活への影響とアセスメント
  - 3) 予防、治療と看護の実際
  - 4) 急性期一般病棟での看護の実際
  - 5) 家族の支援とサポートの実際

#### 【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）

#### 【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	老年臨床看護Ⅲ (感覚器系に障害をもつ高齢者の看護)	講師	病院看護師① 6 時間
			病院看護師② 10 時間 病院言語聴覚士 2 時間 病院歯科衛生士 6 時間 皮膚・排泄ケア認定看護師 6 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

- ・高齢者に発症しやすい疾患及び病態に対する看護を理解する。

【単元】

- ・視覚障害をもつ高齢者の看護 (担当 : 病院看護師① 6 時間)

【内容】

1. 視覚障害をもつ高齢者の看護 検査の介助
  - 1) 視覚障害
  - 2) 白内障 (手術前後)
  - 3) 緑内障
  - 4) 網膜剥離
  - 5) 糖尿病性網膜症
  - 6) 点眼法
2. 演習 (視覚障害体験と介助法) を含む

【使用テキスト】

- ・成人看護学<眼> (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】

- ・聴覚障害、味覚・嗅覚障害をもつ高齢者の看護 (担当 : 病院看護師② 10 時間)

【内容】

1. 聴覚障害をもつ高齢者の看護
  - 1) 聴覚障害
  - 2) 中耳炎
  - 3) メニエール

- 4) 難聴（補聴器の管理）
  - 5) めまい
  - 6) 耳鳴
2. 味覚・嗅覚障害をもつ高齢者の看護
- 1) 慢性副鼻腔炎
  - 2) アレルギー性鼻炎
  - 3) 鼻出血
  - 4) 顔面神経マヒ
  - 5) 声帯ポリープ
  - 6) 気管切開
  - 7) 喉頭がん（手術前後）

【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）
- ・成人看護学＜耳鼻咽喉＞（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

---

【単元】

- ・摂食・嚥下のメカニズムと誤嚥予防（担当：病院言語聴覚士 2時間）

【内容】

- 1. 摂食・嚥下のメカニズムと評価方法
- 2. 誤嚥予防の食事介助の実際

【使用テキスト】

- ・成人看護学＜耳鼻咽喉＞（医学書院）
- ・老年看護学（医学書院）

【評価方法】

- ・出席レポート

---

【単元】

- ・歯・口腔障害をもつ高齢者の看護（担当：病院歯科衛生士 6時間）

**【内容】**

1. 歯・口腔障害をもつ高齢者の看護
  - 1) 歯槽膿漏
  - 2) 高齢者の口腔の特徴
  - 3) 演習（口腔ケア、義歯の手入れ）

**【使用テキスト】**

- ・老年看護学（医学書院）
- ・成人看護学＜歯・口腔＞（医学書院）

**【評価方法】**

- ・出席レポート

---

**【単元】皮膚障害をもつ高齢者の看護（担当：皮膚・排泄ケア認定看護師 6時間）**

**【内容】**

1. 皮膚障害をもつ高齢者の看護
  - 1) 瘙痒（かゆみ）
    - (1) 斑疹
  - 2) アトピー性皮膚炎
  - 3) 褥瘡
  - 4) 热傷

**【使用テキスト】**

- ・老年看護学（医学書院）
- ・成人看護学＜皮膚＞（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

授業科目	小児臨床看護Ⅰ (主な疾患・障害)	講師	病院医師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<b>【目標】</b>					
1. 小児疾患の病態生理について理解する。 2. 小児の各期における疾患の特徴について理解する。 3. 小児の各期における疾患の治療・検査について理解する。					
<b>【内容】</b>					
1. 小児科とは 2. 免疫・アレルギー性疾患 1) アレルギーのメカニズム 2) アレルギー性疾患 (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 3. 呼吸器疾患 1) 上気道の疾患 (1) 急性咽頭炎 (2) クループ症候群 2) 気管支・肺・胸膜疾患 (1) 急性気管支炎 (2) 細気管支炎 (3) 肺炎 4. 血液・造血器疾患 1) 貧血 2) 出血性疾患 (1) 血友病 (2) ビタミンK欠乏症 (3) 特発性血小板減少性紫斑病 (4) 血管性紫斑病 5. 腎・泌尿器および生殖器疾患 1) 糸球体疾患 (1) 溶レン菌感染症後急性糸球体腎炎 (2) 紫斑病性腎炎 (3) ループス腎炎 (4) ネフローゼ症候群 2) 尿路の疾患 (1) 水腎症 (2) 膀胱尿管逆流 3) 生殖器・外性器の疾患 (1) 停留精巣 (2) 尿道下裂 6. 消化器疾患 1) 食道の疾患 (1) 食道閉鎖症 2) 胃・十二指腸の疾患 (1) 肥厚性幽門狭窄症 3) 小腸・大腸の疾患					

- (1) ヒルシュスブルング病 (2) 鎖肛・直腸肛門奇形 (3) 腸重積症
- 4) 腹膜・腹壁の疾患
  - (1) 腹膜破裂 (2) 脇ヘルニア (3) 外鼠径ヘルニア
- 5) 肝臓・胆道の疾患
  - (1) 胆道閉鎖症
- 6) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎
  - (1) ロタウイルス感染症 (2) ノロウイルス感染症
- 7. 循環器疾患
  - 1) 先天性心疾患
    - (1) 心室中隔欠損症 (2) 心房中隔欠損症 (3) 動脈管開存症
    - (4) ファロー四徴症
  - 2) 川崎病
  - 3) 突然死
    - (1) 乳幼児突然死症候群
- 8. 新生児の疾患
  - 1) 新生児の疾患
  - 2) 低出生体重児の疾患
- 9. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常
  - 1) 染色体異常概論
  - 2) 常染色体異常
  - 3) 性染色体異常
  - 4) 胎芽病と胎児病
- 10. 感染症
  - 1) 子どもの感染に関する基本的知識
  - 2) ウィルス感染症
    - (麻疹 風疹 伝染性紅斑 突発性発疹症 水痘 手足口病 咽頭結膜炎 流行性耳下腺炎 他)
  - 3) 細菌感染症
    - (百日咳 ジフテリア ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 他)
- 11. 神経疾患
  - 1) けいれん性疾患
    - (1) てんかん (2) 熱性けいれん
  - 2) 脳性麻痺
  - 3) 筋性麻痺
    - (1) 筋ジストロフィー (2) 重症筋無力症
- 12. 代謝性疾患
  - 1) 新生児マースクリーニング
  - 2) 先天代謝異常症

(1) ムコ多糖症 (2) 骨形成不全症

3) 代謝性疾患

(1) 糖尿病 (2) 低血糖症 (3) アセトン血清嘔吐症

13. 内分泌疾患

1) 下垂体疾患

(1) 成長ホルモン分泌不全性低身長症

14. 悪性新生物

1) 総論

(1) 痢学 (2) 診断・治療

2) 造血器腫瘍

(1) 急性リンパ性白血病 (2) 急性骨髄性白血病 (3) リンパ腫

3) 脳腫瘍

(1) 小脳腫瘍 (2) 幹脳部腫瘍

4) その他の固形腫瘍

(1) 神経芽腫 (2) ウィルムス腫瘍

---

【使用テキスト】

・小児臨床看護各論（医学書院）

【評価方法】

・終講筆記試験

授業科目	小児臨床看護Ⅱ (健康障害の小児と家族 の看護)	講師	看護師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<b>【目標】</b>					
1. 小児各期の成長発達課題について理解を深める。 2. 疾病・障害および入院が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 3. 疾病・障害をもつ小児の看護を経過別に理解する。 4. アセスメントの目的と必要性を理解し、実施、評価できる。 5. 疾病・障害をもつ小児に必要な援助技術の意義と方法を理解する。 6. 小児の安全と安楽を守るために必要な看護管理について理解する。 7. 疾病・障害をもった時に利用する医療の場とそこに関わる人々の役割を理解する。					
<b>【内容】</b>					
1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと兄弟・家族に与える影響と看護 2) 子どもの健康問題と看護 2. 子どもにおける疾患の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期の子どもと家族の看護 3. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント 4. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 小児看護に必要な技術 (1) 与薬 (2) 輸液管理 (3) 抑制 (4) 検体採取 (5) 経管栄養 (6) 排泄 (7) 呼吸症状の緩和 (8) 蘇生法（人工呼吸法） 5. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護					

- 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護
- 4) 特別な状況にある子どもと家族の看護
  - (1) 災害を受けた子どもと家族の看護
  - (2) 虐待を受けている子どもと家族の看護

【使用テキスト】

- ・小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	小児臨床看護Ⅲ (主な疾患・障害の看護・ 看護技術)	講師	専任教員 20 時間 病院看護師 10 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 疾病や障害をもつ子どもの心身の諸発達に及ぼす影響を知り、看護の意義と役割について理解する。
2. 疾病や障害をもつ子どもの家族の特徴を理解する。
3. 疾病や障害をもつ子どもと家族に対する、必要な情報収集・アセスメント・援助の方向性を理解する。

【内容】(担当 : 専任教員 20 時間)

1. 症状を示す子どもの看護
  - 1) 子どもの症状 2) 症状を伴う子どもの看護
2. 障害のある子どもと家族の看護
  - 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある子どもと家族の看護
3. 代謝性疾患と看護
  - 1) 1型糖尿病をもつ子どもの看護 2) 2型糖尿病をもつ子どもの看護
4. 感染症と看護
  - 1) 子どもの感染に関する基本的知識 2) 疾患をもった子どもの看護
  - 3) 感染対策上隔離が必要な子供と家族への看護
5. 消化器疾患と看護
  - 1) 消化器疾患による影響と看護 2) 先天性の形態異常をもつ子どもの看護
6. 悪性新生物と看護
  - 1) 検査・治療を受ける子どもの看護
7. 神経疾患と看護
  - 1) けいれんのある子どもの看護 2) 脳性麻痺のある子どもの看護
8. 事故・外傷と看護
  - 1) 子どもの事故の特徴とその要因 2) 事故防止と安全教育
  - 3) おもな事故・外傷と看護
9. 演習(2 時間を含む)
  - 1) 乳幼児の身体測定 2) バイタルサイン測定

【使用テキスト】

- ・ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)
- ・ 小児臨床看護各論 (医学書院)

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験、レポート、小テスト

---

**【内容】(担当：病院看護師 10時間)**

1. 染色体異常・胎内環境により発生する先天異常と看護
  - 1) ダウン症候群の子どもの看護
2. 新生児の看護
  - 1) 低出生体重児の環境と看護
  - 2) 成長・発達を支える看護
  - 3) 新生児仮死が認められる子どもの看護
3. 呼吸器疾患と看護
  - 1) かぜ症候群の子どもの看護
  - 2) 肺炎・細気管支炎の子供の看護
4. アレルギー性疾患と看護
  - 1) 気管支喘息の子どもの看護
  - 2) 食物アレルギーの子どもの看護
5. 循環器疾患と看護
  - 1) ファロー四徴症の子どもの看護
  - 2) 川崎病の子どもの看護
6. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護
  - 1) ネフローゼ症候群の看護
  - 2) 尿路感染症の看護
7. 血液・造血器疾患と看護
  - 1) 出血傾向のある子どもの看護
  - 2) 輸血療法を必要とする子どもの看護
  - 3) 再生不良性貧血の子どもの看護
  - 4) 血友病・白血病の子どもの看護
8. 運動器疾患と看護
  - 1) 牽引中・ギブス装着中の子どもの看護
  - 2) 先天性股関節脱臼の子どもの看護
  - 3) 骨折した子どもの看護

**【使用テキスト】**

- ・小児臨床看護各論 (医学書院)

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

授業科目	母性臨床看護Ⅰ (妊娠・分娩・産褥・新生児の正常と異常)	講師	病院医師① 病院医師② 病院医師③		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 生殖に関する生理について理解する。
2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理および身体的特徴・変化について理解する。
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康のアセスメントについて理解する。
4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常について理解する。
5. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康問題のアセスメントについて理解する。

【内容】

1. 生殖に関する生理
  - 1) ヒトの発生・性分化のメカニズム
  - 2) 性周期
  - 3) 性行動・性反応
  - 4) 妊娠のメカニズム
2. 正常な妊娠の経過
  - 1) 妊婦の生理
    - (1) 妊娠期の定義
    - (2) 妊娠の成立
    - (3) 妊娠の経過と胎児の発育
    - (4) 母体の生理的变化
    - (5) 妊娠による不快症状
  - 2) 妊婦と胎児の健康のアセスメント
    - (1) 妊娠の診断
    - (2) 妊婦健康診査で行われる検査
    - (3) 妊婦健康診査で行われるアセスメント
 

問診・視診・聴診・レオポルド触診法・計測診・臨床検査・内診・乳房の観察
    - (4) 胎児の超音波断層法
    - (5) 超音波ドプラ法（胎児心音の聴取）
    - (6) 胎児心拍陣痛図・ノンストレステスト<NST>
3. 妊娠期の異常
  - 1) 妊娠期の異常と看護のポイント
    - (1) 異所性妊娠
    - (2) 流産
    - (3) 早産
    - (4) 不育症

- (5) 妊娠悪阻
- (6) 妊娠高血圧症候群
- (7) 妊娠貧血
- (8) 妊娠糖尿病
- (9) 多胎
- (10) 合併症を有する妊娠
- (11) 感染症
- (12) 羊水量の異常
- (13) 胎児機能不全

#### 4. 正常な分娩の経過

##### 1) 分娩の生理

- (1) 分娩に関する定義
- (2) 分娩の三要素
- (3) 分娩の経過

##### 2) 産婦と胎児の健康のアセスメント

- (1) 分娩第1期のアセスメント
- (2) 分娩第2期のアセスメント
- (3) 分娩第3期のアセスメント
- (4) 分娩第4期のアセスメント

##### 3) 分娩期の異常

- |                |            |
|----------------|------------|
| (1) 産道の異常      | (7) 胎児機能不全 |
| (2) 娩出力の異常     | (8) 分娩時裂傷  |
| (3) 娩出物(胎児)の異常 | (9) 異常出血   |
| (4) 児頭骨盤不均衡    | (10) 産科処置  |
| (5) 前期破水       | (11) 帝王切開  |
| (6) 脘帯の異常      |            |

#### 5. 正常な産褥の経過

##### 1) 褥婦の生理

- (1) 産褥の定義
- (2) 全身の変化
- (3) 生殖器の変化

##### 2) 褥婦の健康のアセスメント

- (1) 全身状態
- (2) 子宮復古
- (3) 乳房の状態
- (4) 軟産道の状態

##### 3) 産褥期の異常

- (1) 産褥期の出血・血栓症

- (2) 感染症
- (3) 下部尿路機能障害
- (4) 乳頭・乳房のトラブル
- (5) 産褥精神障害
- (6) 帝王切開後

## 6. 新生児

- 1) 新生児の生理
  - (1) 新生児とは
  - (2) 新生児の生理的特徴
- 2) 新生児のアセスメント
  - (1) 成熟度の評価
  - (2) フィジカルアセスメント
  - (3) スクリーニング検査
  - (4) 行動の評価
- 3) 新生児期の異常
  - (1) 呼吸障害
  - (2) 循環障害
  - (3) 低体温症
  - (4) 消化器系異常
  - (5) 代謝障害
  - (6) けいれん
  - (7) 胎児機能不全
  - (8) 感染
  - (9) 分娩外傷母体疾患と新生児の異常
  - (10) 早産児・低出生体重児
  - (11) 先天異常

## 7. 周産期医療体制

- 1) 母体搬送
- 2) 新生児搬送
- 3) チーム医療
- 4) 周産期ネットワーク

### 【使用テキスト】

- ・ 母性看護学概論 母性看護学①（医学書院）
- ・ 母性看護学各論 母性看護学②（医学書院）

### 【評価方法】

- ・ 終講筆記試験

授業科目	母性臨床看護Ⅱ (妊娠期の正常・異常の 看護)	講師	助産所助産師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

1. 妊娠の進行に伴う生殖器の変化と生殖器以外の身体変化を理解する。
2. 妊娠によって生じる心理・社会的変化と妊娠各期における情緒的変化を理解する。
3. 妊娠中の日常生活を健やかに過ごすためのケアの必要性とその要点を理解する。
4. 妊娠中に起こりやすい不快症状の発症機序を理解し、ケアの要点を理解する。
5. 出産、育児の準備に向けて、支援のポイントを理解する。
6. 妊娠経過に伴う妊婦の健康状態をアセスメントできる。
7. 在胎週数に応じた胎児の発育と健康状態の評価の仕方を理解する。
8. 妊娠期の異常と看護のポイントについて理解する。

【内容】

1. 妊娠期における看護師の役割
2. 妊婦と胎児のヘルスアセスメント
  - 1) 妊婦健康診査における看護
  - 2) セルフマネジメントのための教育（初診時）
  - 3) セルフマネジメントのための教育（妊娠初期）
  - 4) セルフマネジメントのための教育（妊娠中期～後期）
3. 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント
  - 1) 妊婦の身体活動へのアプローチ
  - 2) 不快症状を緩和するアプローチ
  - 3) 性生活へのアプローチ
  - 4) 妊婦の健康維持のための栄養管理とセルフケア
  - 5) 妊婦の社会活動とセルフケア
4. 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護
5. 出産と子育ての準備のための看護
  - 1) 妊婦の心理・社会的変化と看護
  - 2) 出産を控えた家族の心理・社会的変化と看護
6. 出産と子育ての準備のための看護
  - 1) 出産準備教育
  - 2) パースプラン
7. 妊娠期の異常と看護
8. 演習
  - 1) 妊娠中の日常生活動作・運動
  - 2) マイナートラブルへの対処

- 3) 腹囲・子宮底長測定
- 4) レオポルド触診法
- 5) 胎児心音の聴取

【使用テキスト】

- ・母性看護学各論 母性看護学② (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	母性臨床看護Ⅲ (分娩期・産褥期・新生児期の正常・異常の看護)	講師	病院助産師 8 時間 助産所助産師 8 時間 専任教員 14 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

#### 【目標】

1. 分娩経過と産婦・胎児の健康状態のアセスメントおよび必要な看護について理解する。
2. 産婦の基本的ニーズのケア、産痛緩和および不安を取り除くための援助を理解する。
3. 産婦と家族の意向を尊重した分娩、早期母子接触に必要な援助を理解する。
4. 分娩期の健康問題と看護について理解する。
5. 産褥期の女性の身体的变化および心理的適応過程を理解する。
6. 産褥期の母親の発達課題を理解する。
7. 褒婦および家族に対する看護についてアセスメントできる。
8. 褒婦の心理・社会的变化をアセスメントできる。
9. 母乳育児の特性を理解する。
10. 新生児の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児を理解する。
11. 母親・新生児・授乳の観察と評価について理解する。
12. 母親へのエモーショナルサポートとエンパワメントについて理解する。
13. 産褥期の健康問題に対する看護について理解する。
14. 早期新生児の特徴と生理的変化について理解する。
15. 早期新生児のバイタルサイン測定と全身の観察方法を理解する。
16. 早期新生児の健康と発育のアセスメント、および必要な看護について理解する。
17. 早期新生児期の健康問題に対する看護について理解する。

---

#### 【単元】

- ・ 分娩期における看護（担当：病院助産師 8 時間）

#### 【内容】

1. 分娩期における看護師の役割
2. 産婦・胎児の健康のアセスメント
  - 1) 分娩第 1 期のアセスメント
  - 2) 分娩第 2 期のアセスメント
  - 3) 分娩第 3 期のアセスメント
  - 4) 分娩第 4 期のアセスメント
3. 産婦のニーズと看護
  - 1) 産婦の基本的ニーズへの看護
  - 2) 産痛の緩和と分娩進行に対応した看護
4. 産婦と家族の心理への看護
  - 1) 母性意識の発達

- 2) 出産体験の想起と自己評価（バースレビュー）
- 3) 新しい家族関係の構築
- 5. 分娩期の健康問題に対する看護
  - 1) 前期破水
  - 2) 帝王切開術
  - 3) 分娩時異常出血
  - 4) 胎児機能不全
  - 5) 陣痛異常
- 6. 死産・障害がある新生児を出産した親への看護
- 7. 演習
  - 1) 産痛緩和のケア
  - 2) 分娩直後および分娩後2時間の母体の観察

---

#### 【単元】

- ・産褥期における看護（担当：助産所助産師 4時間）

#### 【内容】

- 1. 産褥期における看護師の役割
- 2. 褒婦のアセスメントと看護
  - 1) 褒婦のアセスメント
  - 2) 全身状態
  - 3) 子宮復古
  - 4) 分娩による外陰部の損傷の状態
  - 5) 褒婦と家族の心理・社会的状態
- 3. 母乳育児と看護
  - 1) 母乳育児の世界的動向
  - 2) 母乳育児の特性
  - 3) 乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム
  - 4) 新生児の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援
  - 5) 母親・新生児・授乳の観察と評価
  - 6) 母親へのエモーショナルサポートとエンパワメント
  - 7) 母乳育児支援に役立つ情報提供とケア
- 4. 褒婦の日常生活とセルフケアを支える看護
  - 1) 産褥経過の判断と視点
  - 2) 活動と休息
  - 3) 栄養と食事
  - 4) 排泄
  - 5) 清潔

- 6) 複婦の日常生活とセルフケア
  - 7) 食生活の教育
  - 8) 家族計画
5. 母親になることへの看護
- 1) 母親になる過程へのアセスメント
  - 2) 子どもへの愛着形成過程と親役割形成過程
  - 3) 親役割獲得を促すケア
  - 4) 複婦への社会支援
6. 産褥期の健康問題に対する看護
- 1) 産褥期の出血・血栓症
  - 2) 産褥期の感染症
  - 3) 産褥期の下部尿路機能障害
  - 4) 乳頭・乳房のトラブル
  - 5) 産後精神障害
  - 6) 帝王切開後

---

【単元】

- ・新生児期における看護（担当：助産所助産師 2時間）

【内容】

- 1. 新生児期における看護師の役割
- 2. 早期新生児の特徴と生理的変化
- 3. 早期新生児の健康と発育のアセスメントと看護
  - 1) 新生児の包括的なアセスメント
  - 2) バイタルサイン測定と全身の観察
  - 3) 出生直後の評価とケア
  - 4) 出生後 24 時間以内のケア
  - 5) 24 時間以降から退院に向けたケア
- 4. 早期新生児の健康問題に対する看護
- 5. 演習（担当：助産所助産師 2時間）専任教員 14時間
  - 1) 産褥期の退行性変化と進行性変化
  - 2) 授乳姿勢（ポジショニング・ラッチオン）
  - 3) 新生児のバイタルサイン測定と全身の観察
  - 4) 新生児の移送・オムツ交換・排気
  - 5) 沐浴
  - 6) 複婦・新生児看護過程

**【使用テキスト】**

- ・母性看護学各論 母性看護学②（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	精神看護学概論	講師	病院看護師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

### 【目標】

- ・精神看護の概念を理解し、看護の役割や対象を認識し、援助の概略を理解できる。

### 【内容】

#### 1 精神看護学で学ぶこと

- 1)精神看護学とはなにか
- 2)精神障害を持つ人の病の体験と精神看護
- 3)「心のケア」と現代社会
- 4)精神看護の課題

#### 2 精神保健の考え方

- 1)精神の健康とは
- 2)心身の健康に及ぼすストレスの影響
- 3)心的外傷（トラウマ）と回復
- 4)精神障害の捉え方

#### 3 心のはたらきと人格の形成

- 1)心のはたらき
- 2)心のしくみと人格の発達

#### 4 関係のなかの人間

- 1)システムとしての人間関係
- 2)全体としての家族
- 3)人間と集団

#### 5 社会のなかの精神障害

- 1)精神障害と治療の歴史
- 2)日本における精神医学・精神医療の流れ
- 3)精神障害と文化—多様性と普遍性

#### 6 ケアの人間関係

#### 7 入院治療の意味

- 1)精神科を受診するということ
- 2)治療の器の病院・病棟

8 医療の場におけるメンタルヘルスと看護

- 1) リエゾン精神看護とその活動
- 2) リエゾンナースの活動の実際

【使用テキスト】

- ・精神看護の基礎 (医学書院)
- ・精神看護の展開 (医学書院)
- ・学生のための精神看護学 (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	精神保健	講師	教育研究所所長 10 時間 病院看護師 16 時間 市役所保健師 4 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

- ・人間の発達段階における、精神の健康・不健康について理解する。
- ・患者にとっての回復・リカバリーの意味を理解する。
- ・精神障害をもつ人々の、回復を促進し支援について理解する。
- ・地域における、ケアと支援について理解する。
- ・精神障害者の、地域生活を支える社会制度とその基盤について理解する。

【単元】

- ・ライフサイクルにおける心の発達と関連問題（担当：教育研究所所長 10 時間）

【内容】

1. 人間の心の諸活動  
認知機能・感情・学習・行動・知能
2. 心のしくみと人格の発達  
人格・気質・アイデンティティ
3. 精神分析
4. 対人関係論
5. 愛着
6. 自己心理学
7. 危機的状態と心のはたらき
8. 心の防御規制について
9. 心と環境ストレス関連の疾患  
精神保健の基本 精神の健康とマネジメント  
心身相関の考え方に基づくホリスティックケア

【使用テキスト】

- ・精神看護の基礎（医学書院）

【評価方法】

- ・終講学科試験、レポート

【単元】

- ・回復を支援する（担当：病院看護師 16 時間）

### 【内容】

1. 回復を支援する
  - 1)回復の意味
  - 2)リカバリーのビジョン
  - 3)治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点
  - 4)リカバリーのプロセス
2. 地域におけるケアと支援
  - 1)「器」としての地域
  - 2)地域における生活支援の方法
  - 3)地域におけるケアの方法と実際
  - 4)学校におけるメンタルヘルスと看護
  - 5)職場におけるメンタルヘルスと精神看護

### 【使用テキスト】

- ・精神看護の展開（医学書院）
- ・学生のための精神看護学（医学書院）

### 【評価方法】

- ・終講学科試験、レポート

---

### 【単元】

- ・地域での看護の実際（担当：市役所保健師 4時間）

### 【内容】

1. 精神保健行政および法制度  
障害者基本法・精神保健福祉法・障害者総合支援法・生活保護法・成年後見人制度  
医療観察法・障害年金制度など
2. 地域保健活動について

### 【使用テキスト】

- ・精神看護の基礎（医学書院）
- ・精神看護の展開（医学書院）

### 【評価方法】

- ・レポート

授業科目	精神臨床看護Ⅰ (主な疾患・治療・援助)	講師	病院医師 20時間 専任教員 10時間
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 精神機能(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の障害である、さまざまな精神症状を理解できる。
2. 精神障害の診断と分類、それに基づくさまざまな精神障害について理解できる。
3. 精神科で実際に行われている、治療について理解できる。
4. 精神科における、正確で安全な薬物療法について理解できる。
5. 精神看護におけるコミュニケーション技術・感情労働が理解できる。

【単元】

- ・ 主な精神疾患・障害の特徴と治療 (担当: 病院医師 20時間)

【内容】

1 精神疾患のあらわれ方

- 1) 精神を病むことと生きること
- 2) 精神症状論と状態像 — 理解への手がかり
- 3) 精神障害の診断と分類
  - (1) 診断と疾病分類
  - (2) 統合失調症
  - (3) 気分 [感情] 障害 (双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群)
  - (4) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害
  - (5) 精神作用物質使用による精神および行動障害
  - (6) 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調
  - (7) その他

2 精神科での治療

- 1) 精神科における治療
- 2) 精神療法
  - (1) 個人療法
  - (2) 集団療法
  - (3) 家族療法
- 3) 薬物療法
  - (1) 精神科治療における薬物療法の意義
  - (2) 向精神薬とその種類
- 4) 電気けいれん療法とその他の身体療法
- 5) 環境療法・社会療法

**【使用テキスト】**

- ・精神看護の基礎（医学書院）

**【評価方法】**

- ・筆記試験
- 

**【単元】**

ケアの人間関係（担当：専任教員 10 時間）

**【内容】（グループワーク・課題演習含む）**

1 ケアの人間関係

- 1) ケアの前提
- 2) ケアの原則
- 3) ケアの方法
- 4) 関係をアセスメントする（プロセスレコード）
- 5) 患者 - 看護師関係における感情体験（自己理解・他者理解）
- 6) チームダイナミクス

2 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

- 1) 看護師の不安と防衛
- 2) 感情労働としての看護
- 3) 看護師の感情ワーク
- 4) 看護における共感の光と影
- 5) 感情労働の代償と社会
- 6) 共感労働の予防

**【使用テキスト】**

- ・精神看護の基礎（医学書院）
- ・精神看護の展開（医学書院）
- ・学生のための精神看護学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・筆記試験、課題、発表内容、グループワーク参加状況

授業科目	精神臨床看護Ⅱ (主な疾患・障害の看護)	講師	専任教員
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 既習知識を活用し、精神看護における対象の理解と関わり方を理解できる。
2. 統合失調症の急性期・慢性期・回復期各病期の特徴と治療における看護の役割を理解できる。
3. 統合失調症の患者の、各病期の社会復帰への援助・多職種連携の中の看護の役割が看護過程の展開を通して理解できる。
4. 主な精神疾患・障害の特徴を理解し日常生活をととのえるための援助を理解できる。

【内容】

1. 対象の理解と関わり方

- 1) 精神看護における対象の理解と関わり方
- 2) 精神科医療の特徴と、治療における看護の役割
- 3) 患者を取り巻く環境
- 4) 社会復帰・日常生活援助

2. 統合失調症における各病期のケアの方向性（看護過程）

1) 統合失調症（急性期）

- (1) 病期・症状の特徴に対する看護
- (2) 急性期治療に対する看護
- (3) 急性期における多職種連携の看護の役割（社会資源の活用も含む）  
レジリエンス・リカバリ・ストレングス・エンパワメント

2) 統合失調症（慢性期・回復期）

- (1) 病期・症状の特徴に対する看護
- (2) 慢性期・回復期治療に対する看護
- (3) 慢性期・回復期における多職種連携の看護の役割（社会資源の活用も含む）  
レジリエンス・リカバリ・ストレングス・エンパワメント

3. 主な精神疾患・障害の特徴の理解と日常生活をととのえるための援助

- 1) 気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害〕
  - ・ 気分障害
    - (1) 疾患の見方と症状の捉え方
    - (2) 援助の方法と看護

2) 神経症性障害、ストレス関連性および身体表現性障害

- ・恐怖症性不安障害
- ・強迫障害
- ・重度ストレス反応および適応障害
- ・解離性（転換性）障害
- ・身体表現性障害
- ・その他の神経症性障害
  - (1)疾患の見方と症状の捉え方
  - (2)援助の方法と看護

3) 精神作用物質使用による精神および行動の障害

- ・アルコール症
- ・アルコール以外の精神作用物質使用による精神および行動の障害
- ・ゲーム障害、ギャンブル障害
  - (1)疾患の見方と症状の捉え方
  - (2)援助の方法と看護

4) 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調

- ・知的障害
- ・てんかん
- ・発達障害
- ・摂食障害
- ・パーソナリティ障害
- ・秩序破壊的・衝動制御・素行障害群
- ・適応障害
  - (1)疾患の見方と症状の捉え方
  - (2)援助の方法と看護

5) その他

- ・睡眠障害
- ・性別違和・性別不合など
- ・症状精神病
- ・心身症
  - (1)疾患の見方と症状の捉え方
  - (2)援助の方法と看護

**【使用テキスト】**

- ・精神看護の基礎 (医学書院)
- ・精神看護の展開 (医学書院)
- ・学生のための精神看護学 (医学書院)

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験、課題、発表内容、グループワーク参加状況

# 統合分野

授業科目	在宅看護概論	講師	専任教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

1. 地域で療養しながら生活する人とその家族が理解できる。
2. 在宅における看護の目的と役割の概要について考えられる。
3. 地域のケアシステムの概要について理解できる。

【内容】

1. 地域包括システムと在宅看護が必要とされる背景
2. 在宅看護の目的、目標
3. 在宅看護の役割と機能、在宅看護の対象者、家族の看護
4. 在宅療養を支える制度（訪問看護制度、介護保険制度）
5. 在宅療養を支える制度（障害者総合支援法、難病法、ケアマネジメントと社会資源の活用）
6. 地域包括ケアシステム、地域包括支援センター、対象者の権利保障（成年後見制度）
7. 地域連携、退院支援・退院調整、継続看護、多職種連携
8. 災害時の在宅看護、家族の看護、在宅療養における看護師の役割

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	在宅援助論Ⅰ (対象別看護・在宅ケア システム)	講師	訪問看護師・介護支援専門員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

1. 在宅療養者の主な対象別看護について理解する。
2. 訪問看護サービスのしくみと在宅ケアシステム、ケアマネジメントについて理解する。

【単元】

- ・対象別在宅看護

【内容】

1. 難病（A.L.S等）療養者の在宅支援
2. 終末期の療養者の在宅看護（在宅における緩和ケア、看取り、グリーフケア）
3. 在宅におけるリハビリテーション看護
4. 小児の在宅療養者への看護
5. 精神障害のある在宅療養者への看護
6. 認知症療養者の在宅ケア

【単元】

- ・訪問看護とケアマネジメント

【内容】

1. 在宅ケアを支える訪問看護
2. 訪問看護ステーションと多職種連携
3. 在宅ケアマネジメント

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	在宅援助論Ⅱ (医療管理・退院支援・生活援助)	講師	認定訪問看護師 12 時間 退院調整看護師 4 時間 訪問看護師 14 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 在宅における医療管理を要する人の看護について理解する。
2. 退院支援・退院調整の実際を知る。
3. 在宅看護における生活援助のアセスメントと支援方法を理解する。

【単元】

- ・医療管理と看護（担当：認定訪問看護師 12 時間）

【内容】

1. 在宅における医療管理を要する人の看護 概論
2. 膀胱留置カテーテルの管理（膀胱洗浄を含む）
3. 在宅酸素療法 (HOT)、在宅人工呼吸療法 (NPPV、吸引を含む)
4. 在宅経管栄養・経腸栄養法 (PEG)、在宅中心静脈栄養法 (HPN)
5. 在宅褥瘡管理
6. 服薬管理、疼痛コントロール
7. 在宅におけるフィジカルアセスメントの実際

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

**【単元】**

- ・退院支援・退院調整（担当：退院調整看護師 4 時間）

**【内容】**

1. 退院支援・退院調整の実際
2. 入退院時の他機関・他施設との連携

**【使用テキスト】**

- ・地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

---

**【単元】**

- ・生活援助技術（担当：訪問看護師 14 時間）

**【内容】**

1. 在宅における生活援助の考え方
2. 在宅における活動（移動）を支える
3. 在宅での食生活を考える
4. 在宅での排泄コントロールの方法について
5. 在宅における清潔援助の工夫
6. 演習（在宅での清潔援助、摘便、移動式浴槽、入浴介助）

**【使用テキスト】**

- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

授業科目	在宅援助論Ⅲ (看護過程、指導・相談)	講師	専任教員
開講時期	2 年次	単位数	1 単位 時間数 15 時間

【目標】

1. 在宅看護における看護過程及び訪問、指導相談対応の考え方方に気づく。
2. 療養者と家族が“ともに生きる”ための支援を考えることができる。

【内容】

1. 在宅看護過程の重要点
2. 訪問看護過程（情報収集、アセスメント、訪問看護計画）
3. 訪問看護計画立案、訪問時行動計画立案
4. 在宅における指導・相談対応技術（訪問マナーを含む）
5. 事例検討 GW
6. 訪問演習（ロールプレイ）(4 時間)
7. 在宅看護の実践（シミュレーション演習）

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【評価方法】

- ・ポートフォリオ、ルーブリック

授業科目	看護の統合Ⅰ (研究の実際・フィジカルアセスメント演習)	講師	専任教員① 10時間 専任教員② 20時間
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 30時間

#### 【目標】

1. 看護研究の意義を理解し、方法と実践を学ぶ。
  2. 基礎的なフィジカルイグザミネーションの方法論を用いて、アセスメント能力を身につける。
- 

#### 【単元】

- ・研究の方法と実際 (担当: 専任教員① 10時間)

#### 【内容】

1. 研究の意義
2. 研究の進め方
3. 看護研究のクリティーク
4. 研究における倫理的配慮の原則

演習 (課題) : 文献の活用

- 1) 文献レビュー 2) 文献の整理 3) 文献クリティーク

5. ケースレポート

- 1) ケースレポートとは 2) ケースレポートと事例研究

- 3) ケースレポートの進め方

演習 (課題) : ケースレポートの実例を読んで、評価・講評する

#### 【使用テキスト】

- ・「看護研究」(医学書院)
- ・「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」(照林社)

#### 【評価方法】

- ・課題

---

#### 【単元】

- ・フィジカルアセスメント演習 (担当: 専任教員② 20時間)

#### 【内容】

1. フィジカルアセスメントの実際
2. 症状・徴候からのアセスメント

### 3. 身体機能別のアセスメントと演習

#### 1) 呼吸器系

演習：呼吸音聴診、呼吸音のアセスメント、胸郭の視診、触診、肋骨の特定

#### 2) 循環器系

演習：頸動脈の聴診・触診、中心静脈圧の推定、心音聴取、心尖拍動の観察、  
振戦の触診、アレンテスト、ブランチテスト、ホーマンズ徵候、脈拍測定、  
血圧測定、12誘導心電図

#### 3) 消化器系

演習：腹部のアセスメント、視診、聴診、打診、触診、腹水のアセスメント

#### 4) 感覚器系

演習：眼位の異常の有無、外眼球運動、視力・視野のスクリーニング方法、聽力のスクリーニング方法

#### 5) 運動器系

演習：ADL の観察、筋力のスクリーニング方法、歩行の観察

#### 6) 中枢神経系

演習：小脳機能・平衡機能の評価、瞳孔及び対抗反射の観察、高次脳機能検査

#### 【使用テキスト】

- ・看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント (MEDIC MEDIA)
- ・フィジカルアセスメントワークブック (医学書院)

#### 【評価方法】

- ・終講筆記試験、小テスト

授業科目	看護の統合Ⅱ (看護管理・医療安全)	講師	看護管理者	8時間
			看護師	10時間
			病院医療安全管理者	12時間
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数 30時間

【目標】

- ・看護サービスのマネジメントと医療安全についての基礎的知識と実際を学ぶ。

【単元】看護管理（担当：看護管理者 8時間）

【内容】

1. 看護とマネジメント
2. 看護ケアのマネジメント
3. 看護職のキャリアマネジメント
4. 看護サービスのマネジメント
5. マネジメントに必要な知識と技術
6. 組織とマネジメント
7. 看護管理システム

【使用テキスト】

- ・「看護管理」（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】医療安全（担当：看護師 10時間、病院医療安全管理者 12時間）

【内容】

1. 医療安全を学ぶ意義（担当：看護師）
2. 事故防止の考え方（担当：看護師）
3. 診療の補助業務の事故防止
  - 1) 患者に投与する業務における事故防止（担当：看護師）
  - 2) 継続中の医療行為の観察・管理における事故防止（担当：病院医療安全管理者）
4. 療養上の世話における医療事故（KYTを含む）（担当：病院医療安全管理者）
5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因（担当：看護師）
6. 医療安全とコミュニケーション（担当：病院医療安全管理者）
7. 組織的な安全管理への取り組みとわが国の医療安全対策の展望（担当：病院医療安全管理者）

8. 演習：事例演習

事例の分析方法（時系列分析）

【使用テキスト】

- ・「医療安全」（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	看護の統合Ⅲ (国際看護、災害看護)	講師	専任教員① 4 時間
			大学教員 4 時間 専任教員② 6 時間 専任教員③ 6 時間 専任教員④ 8 時間 消防署職員 4 時間 病院臨床工学技士 4 時間
開講時期	3 年次	単位数	1 単位
			時間数 36 時間

【目標】

- ・基礎的な看護の学修を統合し、さらに健康の概念や基礎技術を発展させ、看護活動の活動領域の広がりが理解できる。

【単元】

- ・国際看護（担当：専任教員① 4 時間）

【内容】

1. 国際看護とは
2. 世界の健康問題の現状
3. 異文化理解
4. 国際看護活動の現状と展開
5. 国際看護の現状と課題

【使用テキスト】

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）

【評価方法】

- ・レポート

【単元】

- ・災害看護（28 時間）

【内容】

1. 災害概論（担当：大学教員 4 時間）
  - 1) 灾害の定義と分類
  - 2) 国内外の災害状況と対策

【使用テキスト】

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）

**【評価方法】**

- ・出席レポート

**2. 災害看護概論（担当：専任教員② 6時間）**

- 1) 災害看護の歩み
- 2) 災害とは
  - (1) 災害の定義、災害サイクル
  - (2) 災害の種類と健康障害
- 3) 災害医療の特徴
  - (1) 災害時の医療の考え方
  - (2) 災害医療実施のための体系的なアプローチ
  - (3) 災害サイクルから考える災害医療
  - (4) 災害医療対応の整備
- 4) 災害看護と法律
  - (1) 災害看護における法律を学ぶ意義
  - (2) 災害対策基本法
  - (3) 災害救助法
  - (4) 被災者支援制度
  - (5) 災害看護の法的な課題
  - (6) 近年の災害における課題と対策
- 5) 災害看護の基礎知識
  - (1) 災害看護の定義と役割
  - (2) 災害看護の対象
  - (3) 災害看護の特徴と看護活動
  - (4) 災害活動に必要な情報
  - (5) 災害看護活動におけるアセスメント
  - (6) 災害看護場面におけるジレンマ

**【使用テキスト】**

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

**3. 救護活動に必要な技術（担当：消防署職員 4時間）**

- 1) 演習：BLS・AED

**【評価方法】**

- ・資格取得試験

#### 4. 災害時の看護介入

- 1) 救急看護（担当：専任教員④ 8 時間）
    - (1) 救急看護の概念
    - (2) 救急看護の対象と看護の展開
    - (3) 救急処置と看護
    - (4) 災害時における救護活動

演習：災害発生に必要な応急処置
  - 2) 被災者の看護（担当：専任教員③ 6 時間）
    - (1) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護  
(急性期・亜急性期・慢性期・復興期)
    - (2) 災害とこころのケア
- ※演習（課題）：避難所生活について考える

#### 【使用テキスト】

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）
- ・別巻「救急看護学」

#### 【評価方法】

- ・終講筆記試験

---

#### 【単元】

- ・医療機器と看護（担当：病院臨床工学技士 4 時間）

#### 【内容】

1. 医療機器の原理と実際
2. AED、透析機器、その他
3. 人工呼吸器、輸液ポンプ、心電図モニターの取り扱い

演習：医療機器の取り扱い

#### 【評価方法】

- ・出席レポート

授業科目	看護の統合IV (ケースレポート・技術 総合評価・看護のまとめ)	講師	専任教員① 16 時間 専任教員② 8 時間 専任教員③ 6 時間
開講時期	3 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

- ・臨地実習での経験を振り返りまとめ、これまで学んできた知識・技術・態度を総合的に評価する。
- 

【単元】

- ・ケースレポート（担当：専任教員① 16 時間）

【内容】

1. ケースレポートの実際

臨地実習での看護実践を 1 ケース選び、自分の実践を客観的にふり返り、論文にまとめ、発表する。

【使用テキスト】

- ・「看護研究」（医学書院）
- ・「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」（照林社）

【評価方法】

- ・ループリック
- 

【単元】

- ・技術総合評価（担当：専任教員② 8 時間）

【内容】

1. 看護技術の「卒業時の到達度」評価
2. 状況におけるアセスメント能力、知識・技術・態度の総合評価

【評価方法】

- ・技術テスト
- 

【単元】

- ・看護のまとめ（担当：専任教員③ 6 時間）

**【内容】**

1. 「看護の本質」とは
  - 1) 看護実践の成り立ち
  - 2) 看護の概念枠組「人間・環境・健康・看護」の意義
  - 3) 専門職者としての責務と職業倫理
2. グループワーク・発表  
(専門職業人として私が目指す看護)

**【使用テキスト】**

- ・「看護学概論」(医学書院)

**【評価方法】**

- ・レポート「テーマ：私の看護観」